

目 次

第1章 ビジョンの目的と策定手順	1
1. 寒風山ビジョンの目的	1
2. 寒風山ビジョン策定の手順	1
第2章 寒風山の歴史と現状・課題	4
1. 年表に見る寒風山の歴史	4
2. 寒風山の現状と課題	6
第3章 寒風山の価値	7
1. 市民・関係者が考える寒風山の価値	7
1) 自然生態的な価値と課題	8
2) 市民の暮らしの中での価値と課題	11
3) 観光・産業的な価値と課題	13
2. 市民の思い出から見る寒風山の価値	16
第4章 寒風山ビジョン	22
1. 寒風山ビジョンの基本理念	22
1) 前提となる考え方	22
2) 寒風山ビジョンの基本理念	23
2. 寒風山ビジョンの体系	24
1) 寒風山ビジョンの体系	24
2) 目指すべき空間像	25
3) 具体的な取り組み	34
3. 寒風山ビジョンのイメージ	39
1) 寒風山ビジョンの全体イメージ	39
2) 拠点のイメージ	40
第5章 実現のための仕組み・体制づくり	46
1. 基本方向	46
2. 具体化へ向けた検討体制	47
3. 持続可能な総合的体制づくり	48

第1章 ビジョンの目的と策定手順

1. 寒風山ビジョンの目的

寒風山は男鹿市を代表する観光資源であるとともに、男鹿市民にとっての貴重な憩いの場である。しかし、観光地としても市民の憩いの場としても、その地位の低下が著しくさらに寒風山の貴重な環境要素である草地の維持管理の課題も顕在化している。

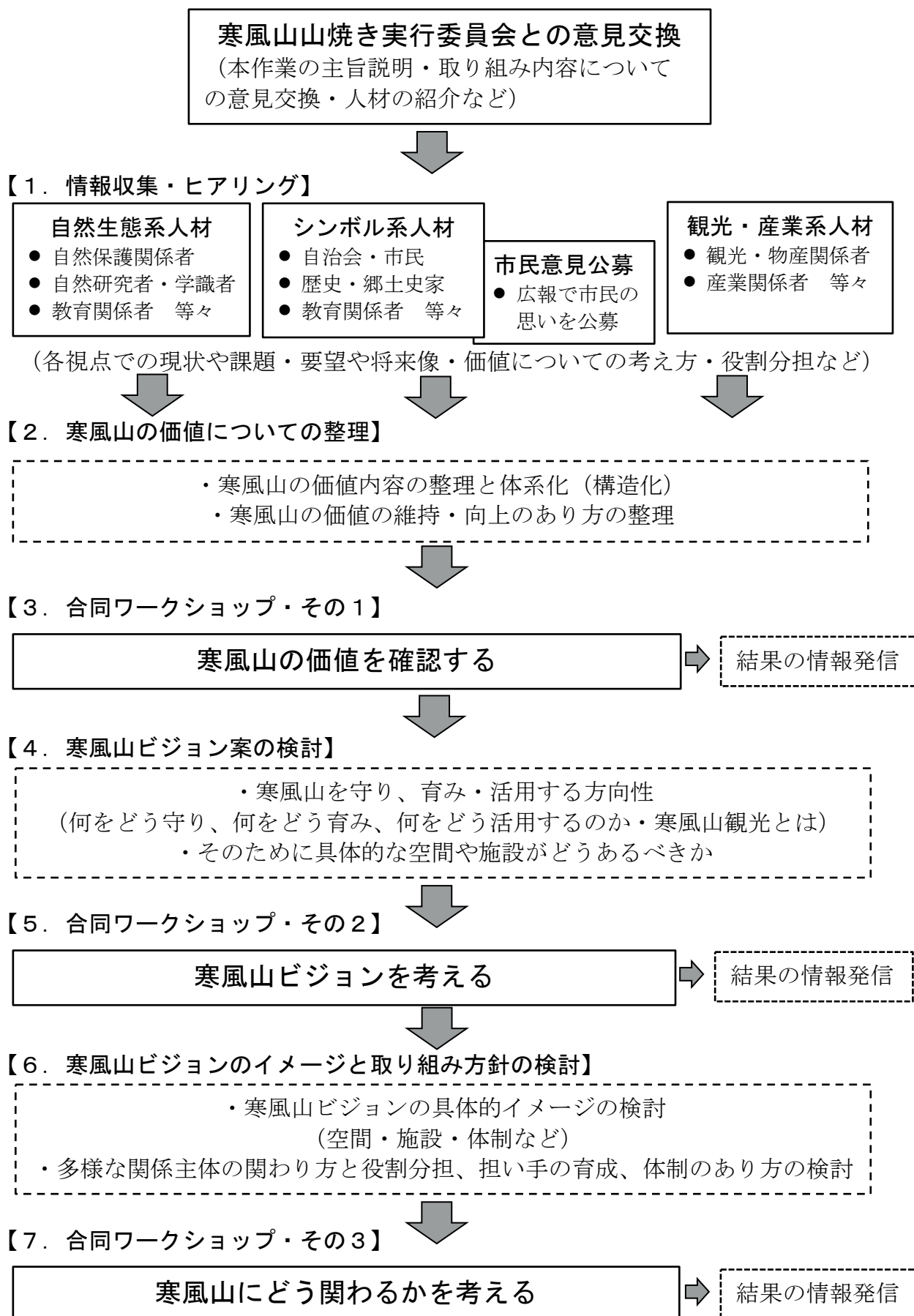
大切な資源である寒風山を魅力ある姿で未来へつないでいくことが求められている。そのため、寒風山の魅力を改めて明確にし、寒風山の将来像とその実現のための方向性を明らかにすることを目的に「寒風山ビジョン」を策定した。

2. 寒風山ビジョン策定の手順

寒風山ビジョンは、地元住民を始め男鹿市民や、寒風山で観光施設を運営する観光事業者、寒風山の自然を守る関係者、文化面や教育面で活用を図る関係者などが広く共有し、将来像の実現へ向けて協働していくことが求められる。

そのため、策定にあたっては、広く市民や関係業界、事業者の方々の参加を募り、意見を聞き、ビジョン内容についての議論を重ね、合意形成に努めるという観点から図1-1に示すような手順を踏んで検討を進めた。

図 1-1 寒風山ビジョン策定手順



市民、関係者との検討の機会である3回のワークショップの実施状況は下表及び写真のとおりである。

	第1回ワークショップ	第2回ワークショップ	第3回ワークショップ
日時	令和3年12月11日 午後1時30分～	令和4年2月20日 午後1時30分～	令和4年3月19日 午後1時30分～
場所	男鹿市民文化会館 小ホール	男鹿総合体育館 アリーナ	若美コミュニティセンター 体育館
参加人数	48人	53人	44人

【第1回ワークショップの様子】



【第2回ワークショップの様子】



【第3回ワークショップの様子】



第2章 寒風山の歴史と現状・課題

1. 年表に見る寒風山の歴史

寒風山は男鹿半島のほぼ中央部に位置する標高約 355mの草地景観が特徴的な火山で、共用草刈り場として、地元住民の遠足先として、当地でも大切に管理されてきた場所である。古くから男鹿半島の観光振興の中核を担ってきた観光地でもある。

このような特徴を持つ寒風山の歴史的な経緯を「自然環境」「市民の暮らし」「観光」の3つの視点から整理して、表にまとめたものが表2-1 寒風山年表である。年表は江戸後期の紀行家である菅江真澄が男鹿を訪れて記した「男鹿の五風」で寒風山に登り眺望に感動した記録が残されていることから始まる。(1804年)

1) 自然環境に関わる歴史

寒風山の自然環境は、明治後期に牛馬による農耕作業である馬耕法が導入されて以降、農耕馬の飼料としてほぼ全山が採草地化された。しかし、戦後の農業の機械化の進展と1960年代からの観光地化により農耕馬のための採草を目的とした草刈りや山焼きがなくなり、草地を維持していくことが難しい状況となる。一方で、この草地景観を価値として1973年に国定公園の指定がされ、さらに1977年から山頂付近の公有地化が進み、結果として草地の維持は私有地を含めて行政が自治会や業者に委託する形で行われて現在に至る。

2) 市民に暮らしに関わる歴史

市民の暮らしとの関わりでは1930年(昭和5年)の「誓の御柱」建立を記念して始まった寒風山まつりが2018年まで80回以上続けられ市民に親しまれていたものの、近年は参加者も少なくなっていた。また、小学校の遠足での寒風山登山はいつ頃から始まりいつ頃に実施されなくなったのかはっきりした記録が残っていないが話として語り継がれている。市民生活にとって重要な滝の頭湧水の上水道利用は1961年(昭和36年)から始まっている。

3) 観光に関わる歴史

観光的には、1960年代に寒風山有料道路の供用を皮切りに展望台の開設や男鹿ゴルフ場開場などが相次ぎ、観光地としての大きな節目となった。回轉展望台の入り込み客の推移から、オープン当初から30万人を超える人が来場し、5年目(1969年)にピークの39万人を超える入り込み客となっている。その後、1986年に回轉展望台の運営が民間に移り、様々なイベントなどを実施、2011年には日本ジオパークの認定を受けるなど集客を図るが入り込み客は減少が続いて現在に至る。

表2-1 寒風山年表

2022年3月25日現在

西暦	元号	自然環境に関わること	市民の暮らしに関わること	観光に関わること	入り込み客数・備考		
					展望台	ゴルフ場	寒風山祭り
1804				菅江真澄男鹿来訪			
1810		大地震		菅江真澄男鹿来訪			
1930	昭和	5	「誓の御柱」建立 ●寒風山まつりの始まり				
1933		8	天保飢饉・日支事変の死者供養塔建立				
1942		17	男鹿地震復興記念碑建立				
1961		36	滝の頭湧水の上下水道利用開始 桜の植樹（750本脇本中）	●寒風山有料道路共用開始	（料金徴収期間25年・S61）		
1962		37		●妻恋小展望台設置			
1963		38		●寒風山スキー場開設			
1964		39	「誓の御柱」移設（現在地）	●回転展望台オープン ●男鹿GC開場	76,543		
1965		40			348,345		
1966		41			329,263		
1967		42			363,450		
1968		43			385,184		
1969		44	●国定公園陳情開始		391,469		
1970		45			354,490		
1971		46			327,963		
1972		47			328,568		
1973		48	●国定公園指定		387,242		
1974		49			328,540		
1975		50			276,370		
1976		51			303,580		
1977		52	(山火事)		285,341		
1978		53	(山火事)		307,948		
1979		54	(山火事)		276,064		
1980		55			266,795		
1981		56			244,241		
1982		57			256,197		
1983		58			193,852		
1984		59			236,438		
1985		60			245,333		
1986		61			254,883		
1987		62			234,480		
1988		63	(山火事)		221,219		
1989	平成	1			223,483		
1990		2			209,969		
1991		3			228,278		
1992		4			205,680		
1993		5			184,292		
1994		6			188,881		
1995		7			156,702		
1996		8	(山火事)		152,155		
1997		9			164,761		
1998		10			129,393		
1999		11			132,275		
2000		12			113,229		
2001		13	●山火事（山焼き再開の契機）		109,307		
2002		14			103,923	25,753	35,000
2003		15	●山焼き（第一次）○		95,194	28,656	36,000
2004		16	○		89,528	31,712	32,000
2005		17	×		78,490	30,066	31,000
2006		18	×		69,789	29,628	32,500
2007		19	×	(山火事)	66,954	27,241	35,000
2008		20	○		60,431	31,008	16,000
2009		21	×		59,082	28,322	28,000
2010		22	×		56,574	23,167	16,800
2011		23	×		43,531		8,000
2012		24	×		41,988		10,000
2013		25	×		41,782		11,000
2014		26	○		41,303		7,000
2015		27	×		37,355		3,500
2016		28			33,958		8,000
2017		29	●山焼き（実証実験）		33,127		9,000
2018		30	(山火事)		31,011		9,500
2019	令和	1	●山焼き（第二次）○		32,461		
2020		2	×		20,349		
2021		3	○				

2. 寒風山の現状と課題

1) 自然環境に関わる現状と課題

国定公園化以降、草地の維持管理はもっぱら草刈りが中心で山焼きは行われなかった。しかし自然発生的に山火事が発生し山焼きと同様の効果があったため、山焼きの必要性が認識されて2003年から山焼きが再開されたが、担い手や費用の問題とともに天候にも左右されて範囲が限定され、かつ定期的な実施が困難な状況が続いている。

草刈りと山焼きの併用による寒風山の自然環境の健全な維持管理のためには、総合的な維持活動の計画とそれを支える担い手と資金の確保についての方針を確立することが大きな課題である。

2) 市民の暮らしに関わる現状と課題

市民の暮らしと寒風山との関わりでは「寒風山まつり」と「小学校の登山遠足」が象徴的であったが、年間を通じて家族でのレクリエーションや散歩、山菜採りや冬のスキーなど、市民が寒風山を訪れる機会は非常に多かった。

しかし、小学校の遠足が無くなり、寒風山まつりの入り込みを見ても減少の一途であり、日常的にも訪れる機会が減って、市民にとっての楽しみの場所としての地位が相対的に低下してきている。そしてかつて身近な存在であった寒風山は、遠くから眺めるだけの存在になっている。

3) 観光に関わる現状と課題

観光的な指標である回轉展望台の入り込み客の推移を見ると、開設後約50年の間徐々に減少傾向であり、最近20年はほぼ一方的に減少しており、2020年にはピーク時の1/20程の約2万人となっている。

本市全体の観光客数の推移と比べても減少が大きく、通過するだけの場所になってしまっており、寒風山に滞在して楽しむ観光的な魅力に欠ける存在になっている。

以上、様々な視点からの寒風山の現状と課題を踏まえて、改めて寒風山の将来を見据えたビジョンづくりの必要性が強く認識される。

第3章 寒風山の価値

1. 市民・関係者が考える寒風山の価値

寒風山ビジョンを考えるに当たり、寒風山の価値を改めて再確認することとした。そのため、寒風山の環境維持を担っている山焼き実行委員会のメンバーへのヒアリングを皮切りに関連する団体や組織へのヒアリングを重ね、最終的には市民公募による「寒風山の価値を考える」をテーマとするワークショップを開催して意見収集を図って総合的なまとめを行った。

寒風山の価値については「自然環境的な価値」「市民の暮らしの中での価値」「観光・産業的価値」の3つの視点で意見を収集した。以下にそのすべての意見に対して同様の意見をまとめて適切なタイトルをつけて整理した資料を掲載する。なお、意見には価値そのものについての内容と価値に関わる課題や提案についての内容があり、前者の意見には着色しており、後者の意見はそのまま表示している。

【寒風山山焼き実行委員会との意見交換の様子】



【産業・観光分野の関係者のヒアリングの様子】



【自然・シンボル分野の関係者のヒアリングの様子】



1) 自然生態的な価値と課題

価値 価値そのものの意見
課題 価値に関わる課題や提案

価値：二次草地であること

生業の場としての二次草地

- 草地は地元民が生業として作り出したもの
- 農耕馬の飼料採取が目的（放牧はなかった）
- かつて各集落が草地管理を分担していた
- 家族総出で草刈りをしたのが楽しい思い出
- 各部落から山頂への道がそれぞれあり、草刈りや遠足の時に利用

国立公園としての二次草地

- 二次草地として国立公園に指定されている
- 野芝の自生地として有名

あるべき姿

- 寒風山としてのあるべき姿は全山芝生
- 芝生の山は全国的にもめずらしい
- 国立公園指定時の状態（採草地として活用していた時期の状態）
- 芝生の山としての価値がある

価値：豊かで特異な植生

- 二次草原の特異な植生（山野草）が多くある
- 植生が豊か（教育資源）
- 二次草原としての四季折々の山野草の観賞
- センブリの存在（健康・食文化に関する素材）
- 稀少植物・オガフウロがある
- 山菜が豊富
- 葉草としての千振のある山
- カタクリの花や山野草のある山
- 貴重な花や野草が多い

課題：公有地化の功罪

- 一部公有地化で市民の関心が薄れ、維持管理が難しくなった
- 公有地化は採石範囲の拡大に歯止めをかける意味もあった

価値：地下水の涵養

- 草原の状態を維持することで水（地下水）の流れを確保する意味がある
- 滝の頭湧水の水量が減っており、採石の影響か？
- うまい地下水を生み出す山（滝の頭・岩清水）
- 採石業者4社は範囲や深さのルールに基づいて採石して地下水への影響に配慮している
- 湧水の恵まれた寒風山
- 複数の水源がある（滝の頭・岩清水）

価値：自然学習の場

- 半島の成立を地学・地理的内容としてとらえ学習の素材となる（男鹿島から5千年前の砂州・砂丘の形成）
- 小中学生の体験教育（文化・歴史・スポーツ）
- 火口や溶岩の流れた跡が明瞭で学習に最適
- 火山の山として子ども達の学習の場として活用
- ジオサイトが点在しており、現地校外学習に適している
- 認定ジオガイドがおり、深い知識を得る観光が出来る

課題：二次草地の維持活動の充実

二次草地をどうやって維持するか？

二次草地の維持が課題

刈るか・焼くか

維持のためには草を刈るか、焼くかしかない

現在の山焼きでは中心となる消防団は全市14分団で各4～5名の体制で実施している

草地を草刈りで維持するためには年2回以上が必要でかつ刈草の搬出が必要

年1回の草刈りではススキが優勢になり、それ以下では樹林地化してしまう

生態系を守る

地表を刈り、山焼きで草地化し、校雨水が浸透して滝の頭で湧出する

山焼きをして自然環境保全に効果があるなら、これまで以上に範囲を広げられると良い。(可能な限りで)

草地の活用

草地の維持のためにも、まずは草地の活用を進めたい(草地遊びなど)

草地を維持することで得をする利害関係者を増やすことが重要である

地元自治会で草刈り

回転展望台が出来るまでは「誓の御柱」の管理をしていた琴湖会が中心となり、脇本・五里合・男鹿中の3つの村が草刈りをしていた

課題：市民活動としての維持管理の展開

草刈り・山焼きの行事化

草刈りや山焼きを地域の行事として定着させることが重要

保全活動・ボランティアの参加を支えるための組織が必要

春の風物詩である春の山焼き・保全活動

山焼きボランティアの組織化

草刈り大会

興味と理解

ジオパークも地元の人に理解してもらいたい

ジオパークの活用

暮らしと結ぶ

寒風山の恵みを生活に結びつけて市民に説明することが必要

課題：観光としての維持管理活動の展開

観光ツアー化

維持管理作業を観光ツアーのプログラムとして売りにできないか

山焼きの魅力

山焼き後の楽しみ
・山菜採りなど

山焼き後のトレッキングの
継続。観光につなげる

山焼き・草刈りの観光体験

草刈り・山焼きの体験ツアーなどは出来ないか？

四季を通じて楽しめる植生
(自生の植物を守り育てる
体験など)

情報発信

寒風山「花カレンダー」の作成
(早春) オキナグサ・アズマギク
(初夏) ツツジ類・スズラン・ホタルカズラ
(夏) センブリ
(秋の七草) カワラナデシコ・オミナエン

2) 市民の暮らしの中での価値と課題

価値 価値そのものの意見
課題 価値に関わる課題や提案

価値：手近かで手軽な存在であること

市民に最も近い山	あつてあたりまえの山	山頂まで車で気軽に来山できる	軽装で登れる芝生の山であることが寒風山の価値（草の刈り取りを十分に行って欲しい）
お手軽・お気楽な山	程よく低い山である！	生活拠点が近い	

小学校の遠足地だった

昔の小学校の遠足地（徒歩で）	寒風山は遠足で歩いて行くところだった
裸足で遊べる場所	草刈りが行き届かなくなって遠足に行かなくなったのではないか
小さい子どもが安全に遊べる場所	小中学校の遠足（鍋っこ）
小学校5年生の時遠足で歩いて頂上まで登った。頂上で飲料水が1円だった。	町内会行事として寒風山を活用（遠足）

いつでも誰にとっても身近かな山

コロナ禍のステイホームの中でストレス発散の場として手軽な存在	高齢者や障害者にとっても楽しんだり維持活動に参加できる山
熊がいない安全な山	低い山なので気軽に登れる
別名「さむかぜやま」という名前の呼び方が親しみやすい	

価値：愛され楽しむ山であること

地元で愛され、地元の人を楽しんでいることが基本

賑わいのある寒風山が価値

賑わいのある寒風山が価値
人々（家族・仲間）が集い、楽しみ、心癒やす場所
カップルがデートを楽しめる
駐車場と草の整備（集まりやすさ・活用のしやすさ）
既にインフラ（電気・水等）がある程度整備された場所
観光客、家族連れで賑わいのある山

季節を楽しむ

市民で山菜を楽しめるようになると良い
いろいろな山菜が採れる（ミズ・竹の子・あけび・センブリ・やまゆり・きのこ等）
山菜の宝庫
季節毎に魅力がある。春のワラビ・夏の山百合・秋のススキ・冬の極寒の強風

1人1人が主人公の野遊び

自分が好きな野遊びを自分が主人公になって出来る山
体力づくりのクロスカンントリー
トレッキングコースのPRとコースの整備
旧登山道を整備し、トレッキングが楽しめる山にして欲しい。
散策コースの宝
楽しみながらトレッキングなど健康づくりができる
芝地の面積の拡大（素足で走り回れるような）
芝生を活用した遊びの創出（子ども達・親を含めて）

原風景

寒風山が原風景の主対象

寒風山をもっと知ろう

ジオパークのことをまずは地元の人に知ってもらいたい

価値：愛され楽しむ山であること (つづき)

様々なイベントで楽しむ

様々な楽しめるイベントが企画され、情報発信することで集客していた

年に1度の大々的なイベントの開催(寒風山まつりのような)

様々な魅力的企画・仕掛け
・ピーフカントリー
・たいまつアート
・夜景観賞
・草刈りアート
・ユーモア村

イベントを市民と地域で行い、盛り上げる

なべっこ遠足

活用しながら活動を起こしていくことが重要で、それを継続的に進めていく仕掛けや体制が必要である

写生大会(子どもから大人まで)

「寒風山の日」を制定する

野外コンサート

寒風山「石の彫刻フェスタ」の復活

野外ステージの設置(コンサート会場としての活用)

様々な形でのイベントの企画・開催

寒風山の良さを確認した寒風山まつり

市民が中心のまつり

様々な楽しみのプログラム

稲刈りの前の時期に楽しむまつり

- ・奉納相撲
- ・草刈り大会
- ・模型グライダー大会
- ・くるっとハイキング
- ・盆踊り大会(仮装大会)
- ・鍋っこ遠足

子どもたちは学校単位で参加していた

昭和5年寒風山山頂に誓の御柱が建立され、その時から「寒風山まつり」が盛大に行われて2015年まで続いた。

寒風山まつりは市民が改めて寒風山を見直す機会になっていた

価値：シンボリックな存在であること

景観的なシンボル

昔の山焼きは正面側(地震塚側)で実施しており、上がる煙は春の風物詩として秋田市をはじめ周辺のまちからも遠望できた

秋田市方面から男鹿市へ向かう国道101号を車で走ると、市内に入ったところから正面に寒風山が見られ、シンボリックな位置づけにある

歴史的なシンボル

歴史遺産がある
・地震塚／・誓いの御柱
・菅江真澄の道

民話や言い伝えがある
・玉ノ池の玉姫
・蛇越長根／・鬼の隠れ里

鬼の隠れ里は最高のシンボル

祈りの対象

毎朝東側を見ると寒風山が見え、手を合わせる

日々の祈りの対象としての寒風山(親・祖先を想う・地域の人々の幸せを祈る)

寒風山の頂上は薬師山とも呼ばれ、19世紀頃は九輪塔なども建てられていた

市内各所から見られるシンボル

各地区から見た寒風山の風景画像・写真の募集・審査会の開催

寒風山フォトコンテストの開催(ムービーを含む)

五里合高屋方面から見た寒風山は女神が横たわっている姿に見えて好きです。広めたい。

五里合から見た寒風山「子宝の山」

男性的な海岸線に対して象徴的な女性を思わせる寒風山の価値

観て元気を頂く

頂上景観の改善(山頂眺望)

回転展望台のイルミネーション

男鹿ならどこからでも見られる。→意識の誘導→周辺の高層物がない

3) 観光・産業的な価値と課題

価値 価値そのものの意見
課題 価値に関わる課題や提案

価値：景観・眺望の素晴らしさ

寒風山の最高の価値は景観

非常にアクセス性が高く気軽に行けるのに眺望がすごく、そのギャップに驚く

誰にでも自慢できる山頂からの眺め

眼下に広い海、男のロマンをかきたてる。

夜景が最高！

寒風山からの夜景がすごくて非常に幻想的である

夜景が最高！

夜景の売り込み

大地を感じる眺望

男鹿半島、自分達の住んでいる大地の成り立ちを感じる（八郎潟を含む）

男鹿を一望できる

寒風山から八郎潟干拓の全貌が概観できる

寒風山からの真山・本山への眺めは最高

寒風山からの眺望は鳥海山から白神山地まで秋田県全体が感じられる貴重な場所である

森吉山（秋田山）の眺望のアピール

頂上から西方に真山・本山が見える。2600万年前頃大陸東部火山活動で形成が始まる。

360度パノラマ

世界三景（360度の大パノラマ景観）

秋田県内に気軽に登れて360度の大パノラマを楽しめる山が他にない

360度眺望できる

屋内から360度展望できる回転展望台（雨風がしのげる）

山頂は雑木がなく360度の眺望が開けている

山頂からの星空観察・自然のプラネタリウム

キャンプなどでの夜の星空

星空が近くに感じる

朝日・夕日見学場所

課題：眺望を最大限活かすには

眺望を活かしてどれだけ気持ちよく過ごせるかが課題

大きさでなくとも気軽に飲食物をテイクアウトできる店があると良い

野外レストラン（ディナー）

夜景やお月見など夜の楽しみ方の工夫がないか

食の魅力づくり
寒風山ジンギスカン

100人でお弁当が食べられる上に何かくつろげるものがないか

シートや保温のひざ掛けなどのレンタルがあれば気軽にくつろげるのではないか

デートスポット活用（自然な二人に場所）

親子のピクニック広場（思い出の場所）

眺望を活かす新たな課題

見晴らしは素晴らしいが、雨雲によって見えない日が結構あるので、その時にどうすれば良いかが課題

回転展望台の東側の屋根に新しい駐車場と東屋の新設（山の中で最高の展望ポイント）

秋田湾の風力発電に関する見学会を開催する

寒風山のジオラマを作る

価値：「体験の山」であること

「遊ぶ」体験の山

誰もが自分が主人公になって遊べる

草地斜面遊びはみんなが楽しめる多様な遊びがある

フィールドアクティビティの場（野遊び）

「広い」から100人単位でお弁当が食べられる

冬に遊ぶ

寒風山の冬の遊び
・スキー・ソリ
・スノボ／・トレッキング

家族向けスキー場の復活を

冬の吹雪体験

「風・空」で遊ぶ

「風」も遊びに
・ハンググライダー
・凧

パラグライダーのメッカ
→もっと観光化へ

安全に楽しく飛べる空
（パラグライダー）

安全に楽しく飛ばせる空
（模型飛行機）

風が強い（凧揚げ・パラグライダー）

パラグライダーの全国大会を誘致する

パラグライダーの初心者練習場として良好な場所

トレッキング

山野草を觀賞するトレッキング

トレッキングが人気

火山地形を巡るトレッキング

様々な草花を觀賞できるようにしたい→スズラン・アズマギク・センブリ等

姫ヶ岳の外輪山（蛇越長根）のルートをもっとPRし、高原の雰囲気を実感してもらう。

車から降りて散歩してみたいと思う演出が必要

蛇越長根など散策路整備

野遊び

夏のグラススキー・段ボールソリ遊びスポット

スポーツ

自転車愛好家のためのヒルクライムロードレース大会の企画・開催

子ども向けスポーツゾーンを設定（アスレチック）

寒風山トレイルランコースの設置とトレイルラン大会の開催

クロスカントリーなどスポーツ大会の山だった。

価値：「体験の山」であること（つづき）

「草地を守る」体験の山

維持管理は守るだけでなく活用することが必要

「採る」体験の山

秋田県民にとっては山は何かを採る場所

東北の人にとって山は遊びに行くところではなく、恵みをいただきに行くところ

センブリも活用できるのでは

「癒やされる」体験の山

コロナ禍の中でストレス発散の場として寒風山に来る人が増えている

都市生活圏に近く、山頂へのアクセス性が良いのでストレス解消に気軽に来る

ストレス解消の場として有効
・開放感＋眺望

かつてシカ牧場があったが、癒やしとしてアニマルセラピー的なものがあったもよい

課題：新たな体験

自然災害伝承碑としての地震塚。ここを起点として男鹿半島自然災害伝承碑巡り（6カ所）

成り立ちのエピソード（火山・地学的な価値）

火山の恵みの活用。寒風山と滝の頭湧水の関わりを知る一体的な見学

鬼にまつわる伝説巡り。「鬼の隠れ里」を起点として男鹿半島を巡るルート

自然の豊かさの体験・発見ができる場所

新しいレジャー（遊び）の施設の可能性がある

四季の色の変化

課題：体験の山じゃあない

かつては体験の山だったが、今は通りすがりの山になっている

多様な体験プログラムを創出して滞在時間を長くすることが必要

国定公園の指定のため体験内容に制約がある

万人が遊べる野遊びの工夫が必要

課題：施設や資源の活用で価値を高める

回転展望台

天候が悪くなったときの来訪者の逃げ場所として有効な存在

今後どのようにするか寒風山観光において大きな課題である

売店の商品や展示内容についてはリニューアルが必要か

回転展望台資料展示室の活用

情報発信基地的な回転展望台

商店の活用

妻恋駐車場の商店の使っていないスペースを使ってステージ的な活用ができないか

滝の頭湧水

滝の頭湧水は寒風山水系のシンボルとしてすばらしい場所である

観光的にどのように活用するか課題である

保水力と浄化作用（水資源）

滝の頭の水源をどう守り、どう活用するか

滝の頭湧水をマイクロ水力発電に活用する

滝の頭湧水を活用して薬品（カトキン）を採るために上海カキの養殖をする。

滝の頭の水を利用して何かできないか

誓の御柱

誓の御柱の重要性の再認識（日本に数カ所しかない）

秋篠宮殿下が寒風山に登頂した際に、回転展望台に案内したが、誓の御柱（明治天皇）に案内しなかった。

誓の御柱などの歴史の体験

男鹿石

男鹿石の文化伝承

寒風石の活用の歴史（池田邸等）

良質な石が採れる

男鹿石、地質の特異性（商品化・観光化）

課題：多様なアクセスの確保

車のない方々の移動手段の確保

駐車場から回転展望台までが遠いので展望台の地下に駐車場を

大パノラマ眺望を体験するための「電動バイクによる登山」達成感がある

気持ちの良いドライブライン（車・バイク）

羽立駅から脇本駅までの遊歩道（散策路）の復活整備

駅から近い。（秋田駅からでも電車で来て歩いて山登りして帰れる）

複数の車のルートがあり、通り抜けられる。

課題：市民が楽しむ価値の情報発信

地元の人たちが楽しむ場所であれば外の人への訴求力になる

S N Sの活用で情報の拡散

課題：外の人が見いだす価値を活かす

外部の30代の人たちが寒風山の新しい価値を見いだしている

外部組織が目付けだした寒風山の価値
・日産のコマーシャル
・プロバスケットチームの合宿

宝の山だが見過ごされてきた

2. 市民の思い出から見る寒風山の価値

市内外の方々から、寒風山での思い出や将来どのような寒風山であって欲しいか、様々なご意見を市ホームページにより募集した。

募集内容は以下のような内容である。

●募集期間：令和3年11月24日～12月24日

●募集内容：○短文「寒風山の思い出と「みらい」へ望むこと」
250字程度

○関連する写真1点（短文のみの応募も可）

●応募総数：12件

寒風山

若美の母ちゃ
(角間崎地区・60代)

私は払戸側からみる寒風山が大好きである。とにかく感謝したい。真夏の草刈り、潟の田での稗とり、いつも見守って励ましてくれる。

また、山頂からの眺めもまた、心を癒してくれる。心が疲れた時は、この景色は最高である。「そんな悩みはちっちゃよ。」と言っている。

なぜか、寒風山には自然と拝みたくなる。



寒風山の景観（男鹿市所蔵）

男鹿半島の象徴、みんなで守る山であって欲しい

澤木 博之
(船川港地区・70代)

寒風山は男鹿半島観光の玄関口として、また、市民の身近な憩いの場として人気があります。子どもの頃の遠足は寒風山で思いっきり遊んだ思い出があります。そんな寒風山は四季折々の山野草の花やトレッキングに人気があります。

また、火山の恵みである「滝の頭湧水源」等の水文化、草地の草刈りや山焼きの歴史があり、古くから山麓周辺住民の生活に密接な関わりを持つ大切な山でした。この寒風山の素晴らしい自然を保全し、見どころを守りながら観光振興や地域活性化につなげ、地域全体が関わりながら、次世代へ引き継いで行ければと思います。



親子でトレッキング（澤木氏所蔵）



山焼き後でトレッキング（澤木氏所蔵）

楽しかった寒風山

あきた おばこ
(秋田市・50代)

思ひ出は、父と母の出会った場所であり、父が展望台で働いていて、母も働きにきて知り合ったそうです。その当時は、住み込みの寮も在ったそうです。

山には『鹿』もいて、遠足や散歩、山菜採り、寒風山祭り、ピクニック、花火を見たりと沢山あります。

パラグライダーで空を飛んでいる人達を下から見上げたり、故郷の山として、馴染み深いです。男鹿市以外の場所から見ると、「故郷に戻ったんだなあ」としみじみ思います。

“みらい”へ望む事は、コロナ禍ではありますが、人が集まりやすいように「滑り台」の設置や寒風山祭りの再開をお願いできればありがたいです。以上です。



寒風山での思い出（あきたおばこ氏所蔵）

寒風山の思い出

菅原 寿
(船川港地区・60代)

昭和43年頃の寒風山でのなまはげ剣道大会の写真です。毎年、寒風山祭りで、なまはげ剣道大会を行っており、素足で行う芝の感触が最高でした。誓の御柱付近での稽古ではNHKでテレビ放送されました。

あの賑わいと素足での駆けっこ、お昼の弁当の美味しかったこと、今の子どもたちにも体験させたいと思います。

当時寒風山ではヒコーキ大会が行われ、男鹿市内の小学生が参加し、賑やかでした。自信作の飛行機で船川駅（当時、現男鹿駅）からバスに乗り、入賞目指して寒風山に向かいましたが、バスの中がかなり混んでおり、人に押されて羽が曲がり、何とか直して大会に挑みましたが、すぐ落下し、残念な結果でした。

冬はスキーを担いで中腹まで登り、そして直滑降で滑り降りること何回も繰り返しました（学校で寒風山でスキーをしたと自慢話をし、鼻高々でした）。寒風山は自分にとって自慢の山です。



なまはげ剣道大会（菅原氏所蔵）

思い出（その1）

沢木 長栄
(船川港地区・70代)

1960（昭和35）年8月中旬、寒風山の道路造りのアルバイトに、地元からトラックの荷台に15人ほど立ったまま乗せられ、背中に落下防止用のロープを回した状態で工事現場に向かいました。

現場では大型ダンプカーが運んだ砕石を、暑い中、一輪車とスコップで平坦になるよう均すのが仕事で、重機は無し肉体重労働でありました。また水分補給は一升瓶の生温水の回し飲みでした。

寒風山はスイスのクライネシャイデックのハイキングコースとか礼文島のトレッキングコースと同じように森林等の遮るものが無いのでコースの最初からずっと景色を眺めながら山歩きができるのでこれを進めたらいいと思います。コースはいろいろ考えられると思います。



1967、1968年の寒風山有料道路使用券
(沢木氏所蔵)

思い出（その2）

沢木 長栄
(船川港地区・70代)

まだ自動車道が無い1958（昭和33）年、船川中学校の生徒の頃、ひとり一人が鍬等を持参し、桜の苗木を1本ずつ南側斜面に植樹しましたが、山はあの通り風が強く、乾燥土壌のようで活着しないようでした。今中腹に4、5本残っているのが時の名残のように思われます。

あれから60年、もしあの植樹した苗の全てが順調に育ったとしたら、日本一の桜の名所になっていただろうと残念です。

寒風山はトレッキングに向いているのでかつての「お山かけ」を参考に「定期登山会」が出来たらと思います。例えば、寒風山花のウォーキング

- | | | |
|-----|----------|--------|
| 第1季 | 桜花の巻 | 5月 5日 |
| 第2季 | 野菊の巻 | 6月 15日 |
| 第3季 | 白百合の巻 | 7月 15日 |
| 第4季 | リンドウセンフリ | 9月 21日 |

将来は男鹿半島のバス観光のツアーにこのハイキングを取り入れてもらえたら最高だと思います。コースは長短いろいろ考えられると思います。



寒風山の鹿園 (沢木氏所蔵)

思い出（その3）

沢木 長栄
(船川港地区・70代)

寒風山祭りは昔から男鹿市の一大イベントで、男鹿にはなくてはならないものでした。

1954(昭和29)年頃、小学4年生だったと思います。地元から歩いた記憶がありますが、これが祭りに行った最初です。

1960(昭和35)年頃には中学校対抗相撲大会があり脇中、船越中、船川中等が参加、地域の応援は熱のあったもので大いに盛り上がりました。

その後には、グライダーを飛ばす模型飛行機大会、最近では仮装盆踊り、歌謡ショー等がありました。祭りがなくなり残念です。

寒風山で次のようなことが出来たら…
グラススキー、小中学校学芸発表会、航空自衛隊音楽会、模型グライダー大会、全県グランドゴルフ大会、なまはげ太鼓の演奏等が出来ないかと夢見ています。



1981年9月20日に開催されたなまはげ
剣道大会（沢木氏所蔵）



1967年の回転展望台入場券（沢木氏所蔵）

寒風山が人々に与える影響

小野 風遠
(潟上市・20代)

私が小さい頃は、祖母や母に連れられ、寒風山へ行っていました。山登りが大好きで、転げ落ちながらも、兄と一緒に頂上を目指して登っていました。また、寒風山まつりでは、怖い存在であったなまはげが演奏している姿を見て感動したことを今でも覚えています。寒風山は子どもから大人まで様々な思い出を作ることの出来る観光スポットだと思います。

イベントの開催や観光資源としての活用を図り、男鹿市の観光業に寄与していくことを望みます。



往時の寒風山まつり（男鹿市所蔵）

男鹿のシンボル

ひなちゃん
(脇本地区・60代)

寒風山は男鹿に住む人にとって、とても身近な存在です。旅先からの帰り道、男鹿大橋から寒風山が見えてくると安心感からかほっとするものです。

子どもたちが小さかったときにはよく遊びにつれていきました。

春は山菜採り、夏は芝生でピクニック、秋は黄金に光る田んぼを望み、冬は元気にそり滑り。1年を通して楽しめる場所です。

写真好きの夫が撮った1枚を添えました。今度は孫と一緒にいきたいです。



寒風山でソリ滑り（ひなちゃん氏所蔵）



草原で休憩（男鹿市所蔵）



寒風山まつりでの盆踊り（男鹿市所蔵）

寒風山での思い出

山・好子
(野石地区・40代)

子供の頃、遠足や家族と一緒に弁当を持ってよく遊びに行きました。

あの頃は人も沢山いてにぎわっていたので、その光景もまた子供心にワクワクしたものでした。

子供達が喜ぶ遊具や動物とふれあえる場があればいいなと思います。

またにぎやかな寒風山に戻ってほしいです。



草原での憩いのひと時（男鹿市所蔵）

いつまでも変わらないでほしい景色

山 焼代
(角間崎地区・40代)

先日、夜間特別観覧の機会があり、30年ぶりに寒風山の展望台に行ってきました。

暗闇の中、ランタンを持ってスロープをのぼると途中で息が上がってしまい、こんなに急な坂だったかしら、私も歳をとってしまったと痛感しました。

中に入ると天井が低い螺旋階段が・・・昭和の時代に戻ったようで懐かしく、古くても変わらない建物が残っているのはいいものだなあと感傷的に。

高いビルのない夜景にほっこりし、一緒に行った娘が大きくなってまた寒風山へ行った時、今日のことを思い出してくれるかな？その時も今と変わらない景観であってほしい、そう願って過ごした夜でした。



竣工当初の寒風山回転展望台
(有料道路パンフレットより、個人所蔵)



寒風山スキー場 (男鹿市所蔵)



小展望台 (男鹿市所蔵)



売店 (男鹿市所蔵)

寒風山で自由研究

男鹿の七不思議
(船越地区・40代)

ある日、小学生の娘が、「寒風山のピラミッド」に行きたいと言い出しました。よくよく聞くと、鬼の隠れ里のこと。どこかで写真を見たようでした。娘は、夏休みの自由研究で、これをやる！と気合十分。暑い日、鬼の隠れ里や回転展望台に行き、伝説などを含めて、模造紙にまとめました。良い研究になりました。

これからもジオパークや国定公園など、その価値が大切にされる楽しい山であってほしいです。学習の素材にもなる素敵な寒風山。親子ともに楽しい思い出をくれて、ありがとう。これからもよろしく。



鬼の隠れ里での自由研究
(男鹿の七不思議氏所蔵)

第4章 寒風山ビジョン

1. 寒風山ビジョンの基本理念

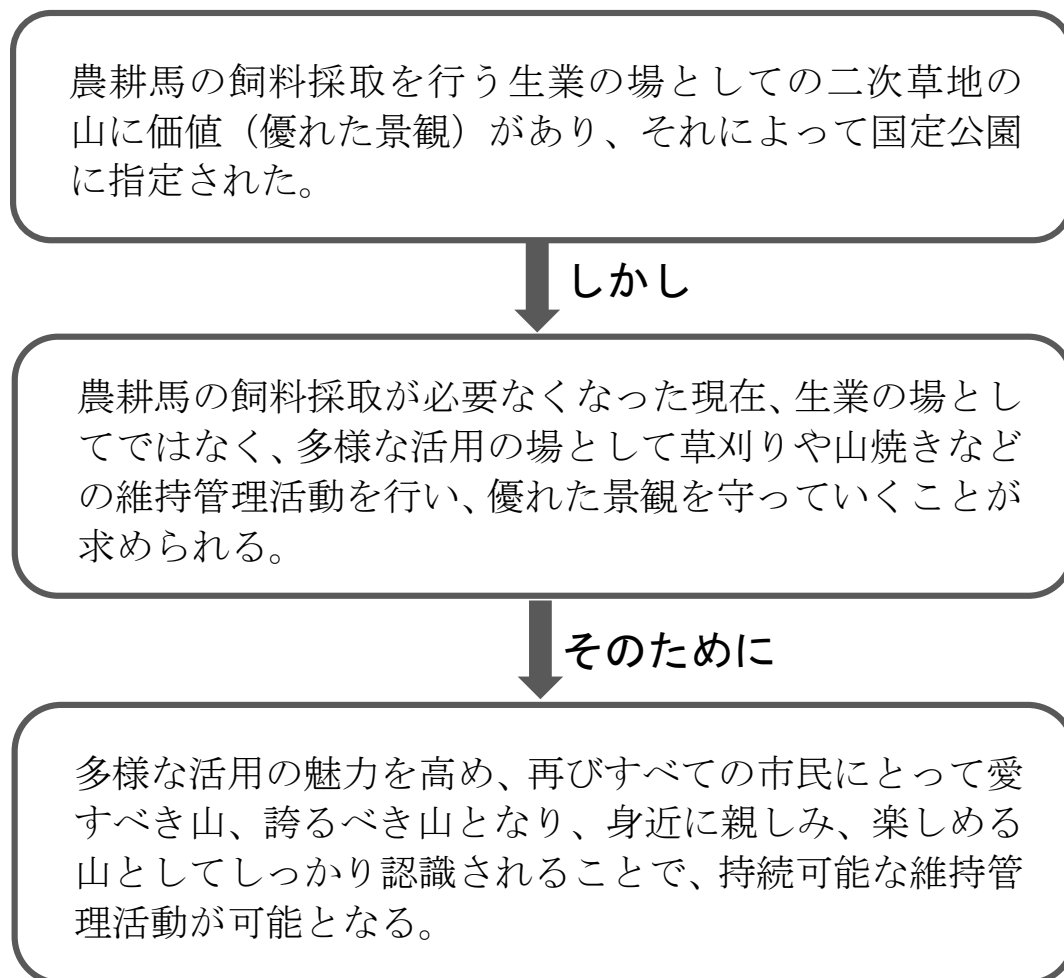
1) 前提となる考え方

前章までの寒風山の歴史、価値とそれに関わる課題を踏まえて、寒風山のビジョンを描く上での前提となる考え方を整理する。

寒風山の火山という地形地質的な特性に加えて歴史的な経緯とそれに基づく国定公園の指定という条件を踏まえた考え方の流れを整理したものが図4-1である。

生業の場として採草のための二次草地の山から観光・レクリエーションとしての活用の山への歴史的変遷の中で、二次草地としての優れた景観の山を維持していくことが重要である。そのためには、改めて男鹿市民にとって愛すべき、誇るべき山としての認識を高め、多様な活用を通じて継続的に維持していくことが必要である。

図4-1 前提となる考え方の流れ

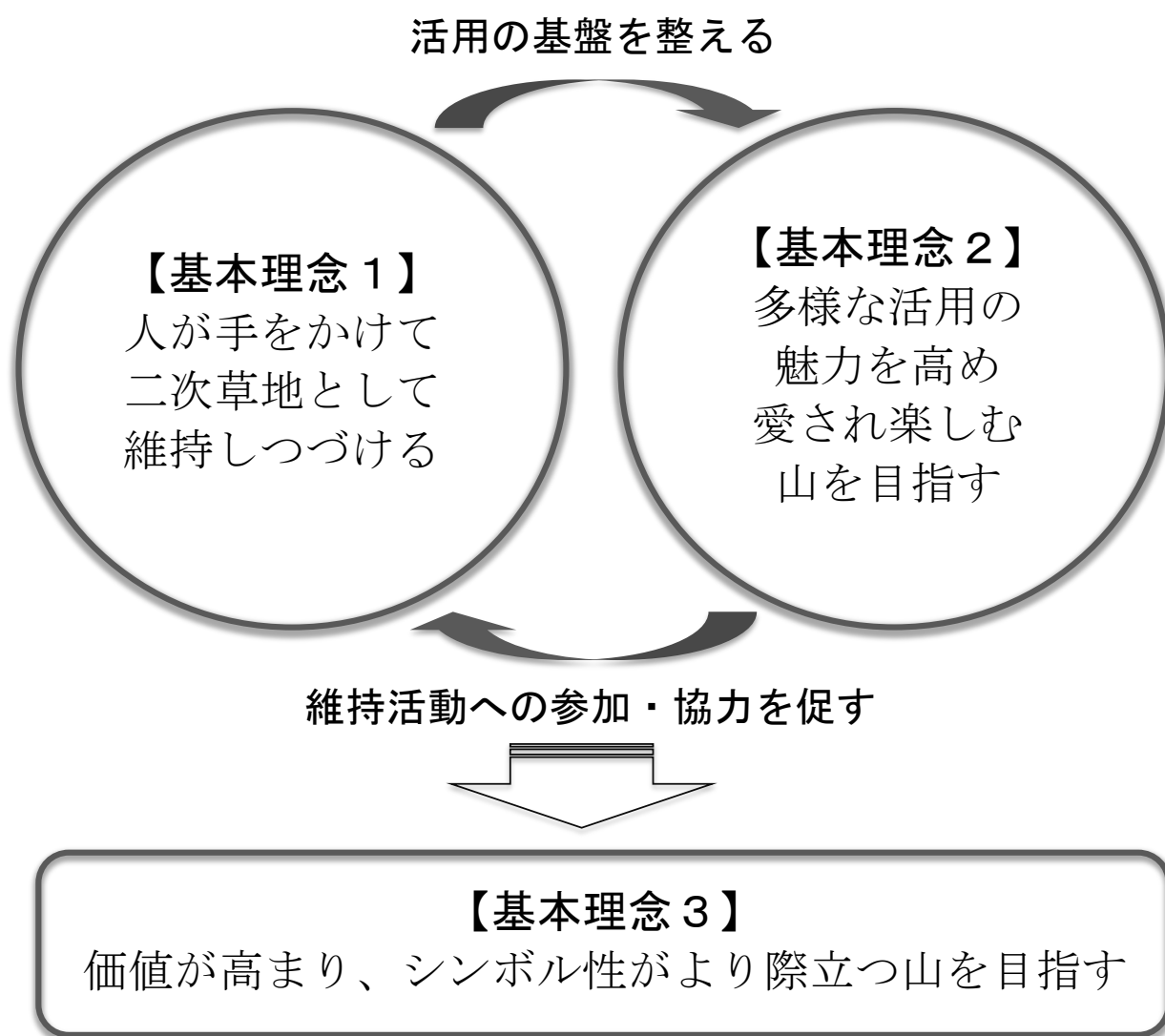


2) 寒風山ビジョンの基本理念

寒風山ビジョンの基本理念は前項の前提でも示したように、あくまでも国定公園として指定された「二次草地の山としての優れた景観」を維持・向上させていくことである。そしてそのためには市民や観光客の多様な活用に基づいた関係構築(寒風山を愛し、誇りに思うこと)により持続可能な維持管理活動を推進していくべきである。

図4-2に示すように、寒風山の自然環境の維持管理活動(基本理念1)と多様な活用(基本理念2)が車の両輪となり、それが相互に作用し高め合っていくこととなる。そしてその2つの基本理念の好循環の結果として寒風山の価値が総合的に高まり、シンボル性がより際立つ山になっていくことを目指す。(基本理念3)

図4-2 寒風山ビジョンの基本理念



2. 寒風山ビジョンの体系

1) 寒風山ビジョン体系

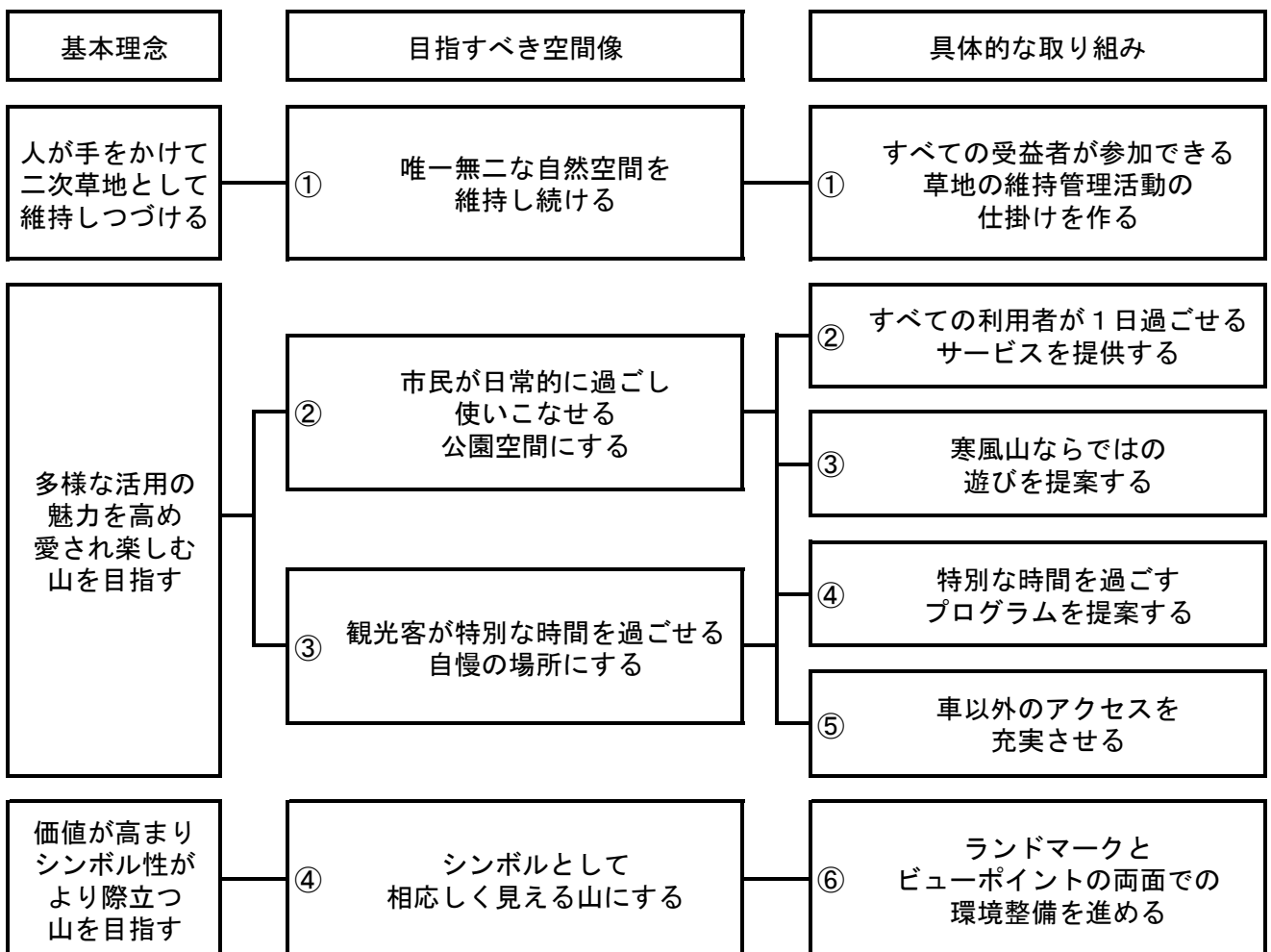
3つの基本理念に対応する「目指すべき空間像」とそれを実現するための「具体的な取り組み」による体系を以下の図4-3に示す。

第1の基本理念である「人が手をかけて二次草地として維持しつづける」に対応して、寒風山独特な唯一無二な自然空間のあり方とそれを実現する取り組みを示す。

第2の基本理念である「多様な活用の魅力を高め、愛され楽しむ山を目指す」に対応して、市民にとっての日常的な活用の空間のあり方と観光客にとっての非日常（特別な時間）な活用の空間のあり方とその両方を実現する取り組みを示す。

第3の基本理念である「価値が高まりシンボル性がより際立つ山を目指す」に対応して、シンボルに相応しく見える山のあり方とそれを実現する取り組みを示す。

図4-3 寒風山ビジョンの体系



2) 目指すべき空間像

(1) 唯一無二な自然空間を維持しつづける

- 人が手をかけて維持する草地としての自然空間の山のイメージを維持し、全山草地を目指す。
- 寒風山独自の多様な地形・地質やそこでの生態系（植生及び食物連鎖体系）を守り、際立つ自然環境を目指す。
- 草地としてのあり方やその環境を保全するための人の手のかけ方、さらに活用の違いにより2つのゾーンを設定する。（図4-4）

【自然観察ゾーン】（図4-5・4-6参照）

- 低木等が混在する草地・草原で、多様な植生やジオパーク的要素を多く持ち、自然観察や環境教育等のフィールドとして活用できるゾーン
- 保全すべき、そして観察の対象となる要素としては以下のような内容となる。

ア. 地形・地質

- ・ 火山地形・滝の頭湧水との関係性など

イ. 植物・植生

（早春）アズマギク・アラゲヒョウタンボク・オキナグサ・エゾタンポポ・カタクリ

（初夏）スズラン・ホタルカズラ・タンウツギ・レンゲツツジ

（夏）ノハナショウブ・センブリ

（秋）メガルガヤ・ススキ・カワラナデシコ・オミナエシ

ウ. 動物

（鳥類）草原性：ヒバリ・オオジシギ・キジ

（昆虫・クモ類）草原性の種：ジャノメチョウ・ヤマキマダラヒカゲ・モンキチョウ・ベニシジミ・ツバメシジミ・キアゲハ・ミヤマチャバネセセリ

【アクティブゾーン】（図4-7参照）

- 野芝を主体とした草地・草原で、各種の遊びやピクニック、イベント等アクティブに活用できるゾーン
- 維持管理としては、かつて飼料採取の草刈場として活用していた当時のように草刈りと山焼きを併用し、春の山焼きと年数回の草刈りとその草の搬出が望まれる。しかし、実際は既存施設の状況をはじめ担い手となる人材の問題など様々な制約条件があり、現在のような限定的な草刈りに止まっている。
- 野芝以外の植物への配慮や保護すべきエリアと利用可能エリアのゾーニングと規制等を明確にしつつ維持管理活動を充実していく。

図4-4 ゾーニング図

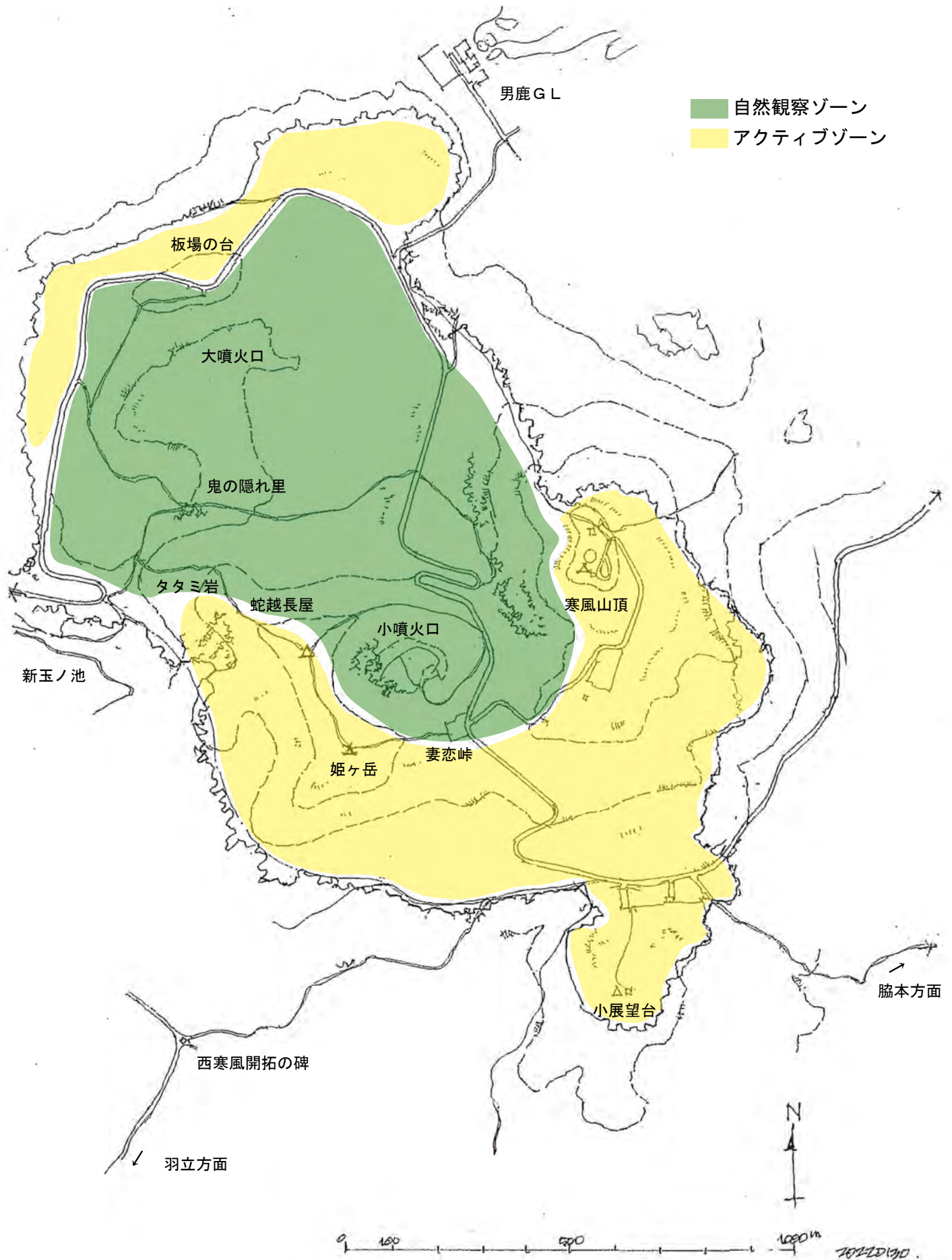


図4-5 自然観察ゾーンのイメージ（広域）

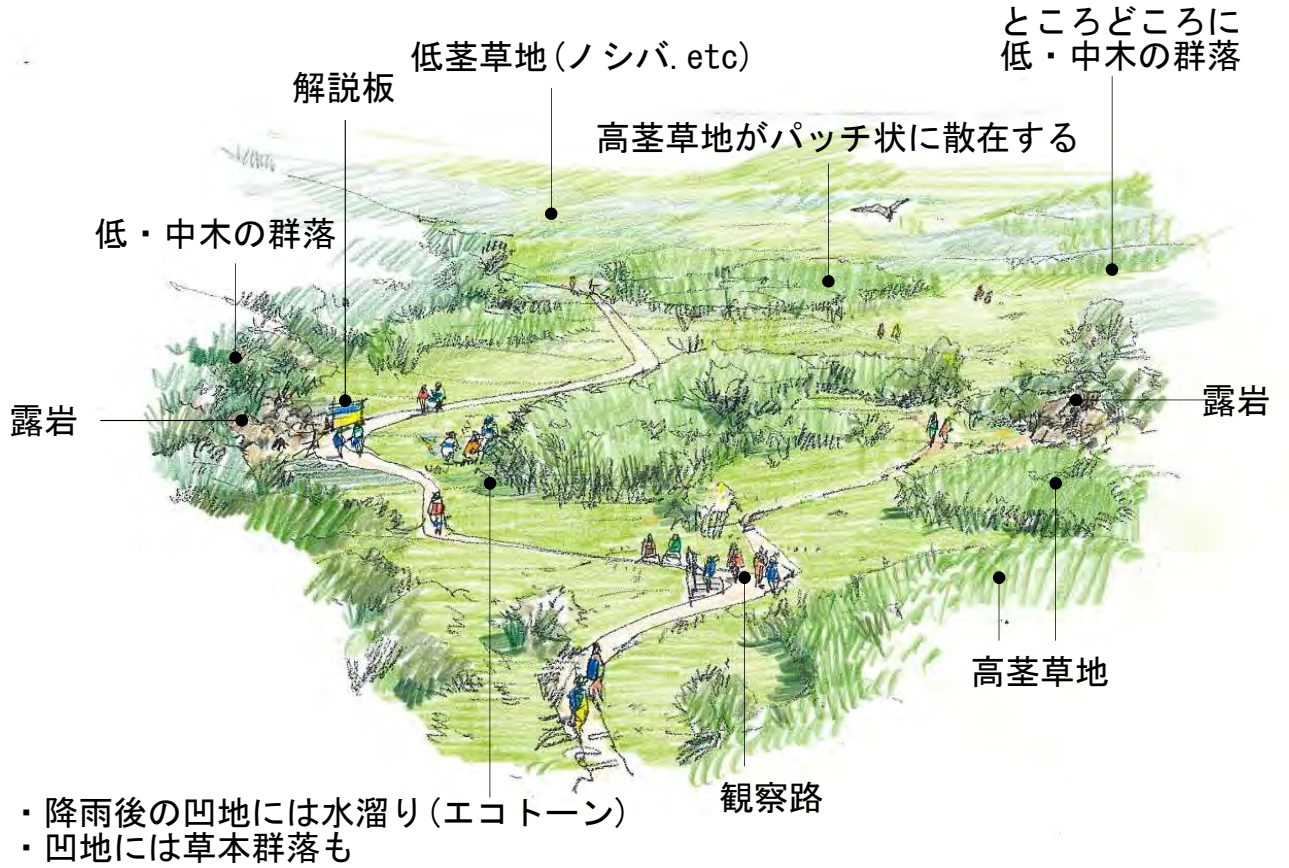


図4-6 自然観察ゾーンのイメージ（詳細）

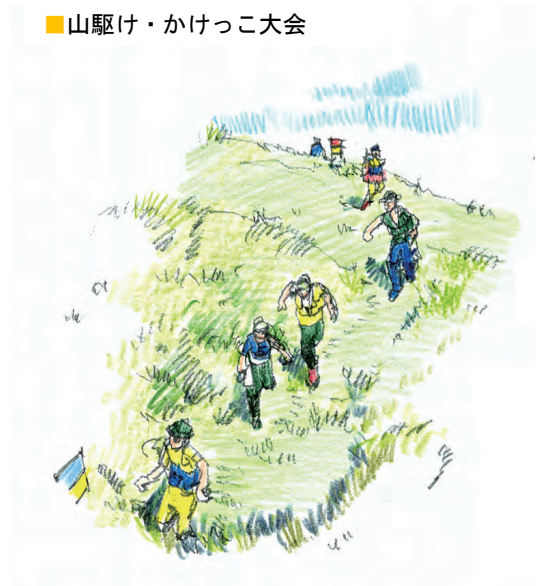


図4-7 アクティブゾーンにおける活動イメージ

■ピクニック・デイキャンプ



■山駆け・かけっこ大会



■山菜とり



■草そり・草すべり



■虫とり・草あそび



■読書・睡眠



(2) 市民が日常的に過ごし使いこなせる公園空間にする

- 全市民が気軽に日常的に行く公園空間を目指す。
- 市民一人当たり公園面積で世界有数になる。(表4-1 参照)
- 多様な人々がそれぞれの居場所をつくって共存している公園を目指す。(イメージとして図4-8 参照)
- アクティブゾーンを中心に公園空間としての利用を支える機能を集積させる拠点を設定し、その環境を整える。拠点の設定は山頂と既存の駐車場がある場所(山頂下・小展望台下・妻恋峠)の4カ所に加えて、北側ゾーンに対応して板場の台を位置づける(図4-9 参照)
- 5つの拠点の特徴に即してそれぞれを以下の名称とする。
 - ①山頂→山頂天空広場
 - ②小展望台下→市民広場
 - ③山頂下→風と空の広場
 - ④妻恋峠→妻恋広場
 - ⑤板場の台→火山広場
- ハイキング・トレッキングコースのネットワークを設定し、コース環境を整える。コースの設定は従来ジオパークツアーなどで利用しているコースに加えて、前述の5つの拠点を結び、かつアクティブゾーンへのアクセスを考慮して一部新規のコースを設定している。(図4-10 参照)

図4-8 「グランド・ジャット島の日曜日の午後」 ジョルジュ・スーラ作

公園で多様な人々がそれぞれの居場所をつくって共存している風景



表4-1 一人当たり公園面積一覧

		行政区域人口	開設済公園面積	一人当り公園面積
		R3. 4. 1	R3. 3. 31	
		人	ha	m ² /人
秋 田 県	男鹿市	25,973	47.23	18.18
		2014年時点での草原面積138haを加えた場合 (※1)	182.23	70.16
		1975年時点での草原面積319haを加えた場合 (※1)	366.23	141.00
	秋田市	304,334	607.29	19.95
	潟上市	32,166	64.46	20.04
	鹿角市	29,566	63.83	21.59
	大館市	69,957	84.08	12.02
	北秋田市	30,565	128.36	42.00
	能代市	51,003	41.19	8.08
	由利本荘市	74,575	96.41	12.93
	にかほ市	23,664	20.56	8.69
	大仙市	78,603	133.19	16.94
	仙北市	25,084	33.87	13.50
	横手市	84,238	120.08	14.25
	湯沢市	43,024	29.04	6.75
	美郷町	18,852	2.87	1.52
	小坂町	4,847	12.98	26.78
	五城目町	8,745	12.87	14.72
	八郎潟町	5,562	7.31	13.14
合計	910,758	2,054	22.55	

※1：「秋田県男鹿半島寒風山における草原植生の変化」
(増井太樹・澤田佳宏・津田 智) 景観園芸研究第19号2017

北海道(都道府県で最高値)		39.9
全国都道府県平均値		10.7
諸 外 国	ワシントンDC(アメリカ)	52.3
	ニューヨーク(アメリカ)	18.6
	ロンドン(イギリス)	26.9
	パリ(フランス)	11.5
	ウィーン(オーストリア)	21.7
	ベルリン(ドイツ)	27.9
	ストックホルム(スウェーデン)	80.0
	ソウル(韓国)	11.3
東京23区(日本)		4.4

(国土交通省資料による)

(3) 観光客が特別な時間を過ごせる自慢の場所にする

- 様々な目的（ニーズ）を持つ観光客に対して、それに相応しくかつ寒風山でしか体験できない特別な時間を過ごせる自慢の場所の環境を整え、それをツアーメニューとして提供する。
- 寒風山でしか出来ない体験としては以下のようなものが想定される。
 - A. 眺望
 - ・360度の大パノラマを見る・日本海を見る・八郎潟干拓を見る・秋田市の夜景を見る・秋田県を感じる・朝日を見る・夕焼けを見る・星を見る、等々
 - B. 眺望プラス
 - ・眺望を見ながらお茶をする・食事をする・お酒を飲む、等々
 - C. 活動
 - ・野遊び・山菜採り・ハイキング・トレッキング・パラグライダー・自然観察・ジオパーク体験、等々
- 特に5つの拠点を中心とした自慢の場所の設定とそのしつらえを整える。（図4-9参照）

(4) シンボルとして相応しく見える山にする

- 前項までの3つの空間のあり方（自然環境として・市民にとって・観光客にとって）を目指すことで寒風山の価値を高め、シンボル性も高まることとなり、そのシンボルとしての存在を際立たせるための寒風山の見え方を考える必要がある。
- ランドマーク（見上げる対象・目印）としての寒風山のあり方を考え、それにふさわしい空間を目指す。
- 特に山頂空間のランドマークとしてのあり方をみんなで考え、ふさわしい空間を目指す。
- さらに寒風山が象徴的に見えるビューポイントを探し、主要なポイントにおける環境整備を行う。

図4-9 拠点位置図

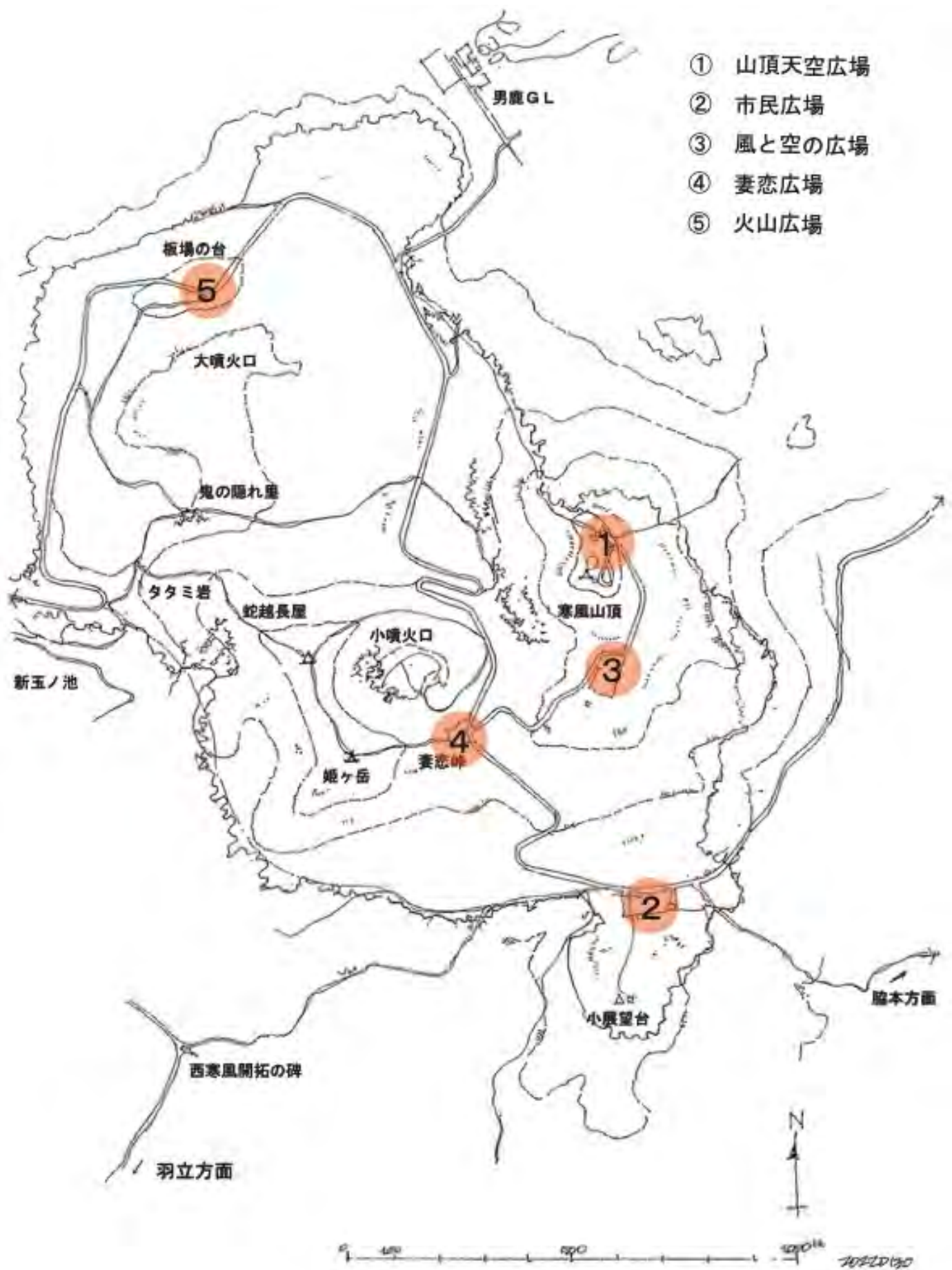
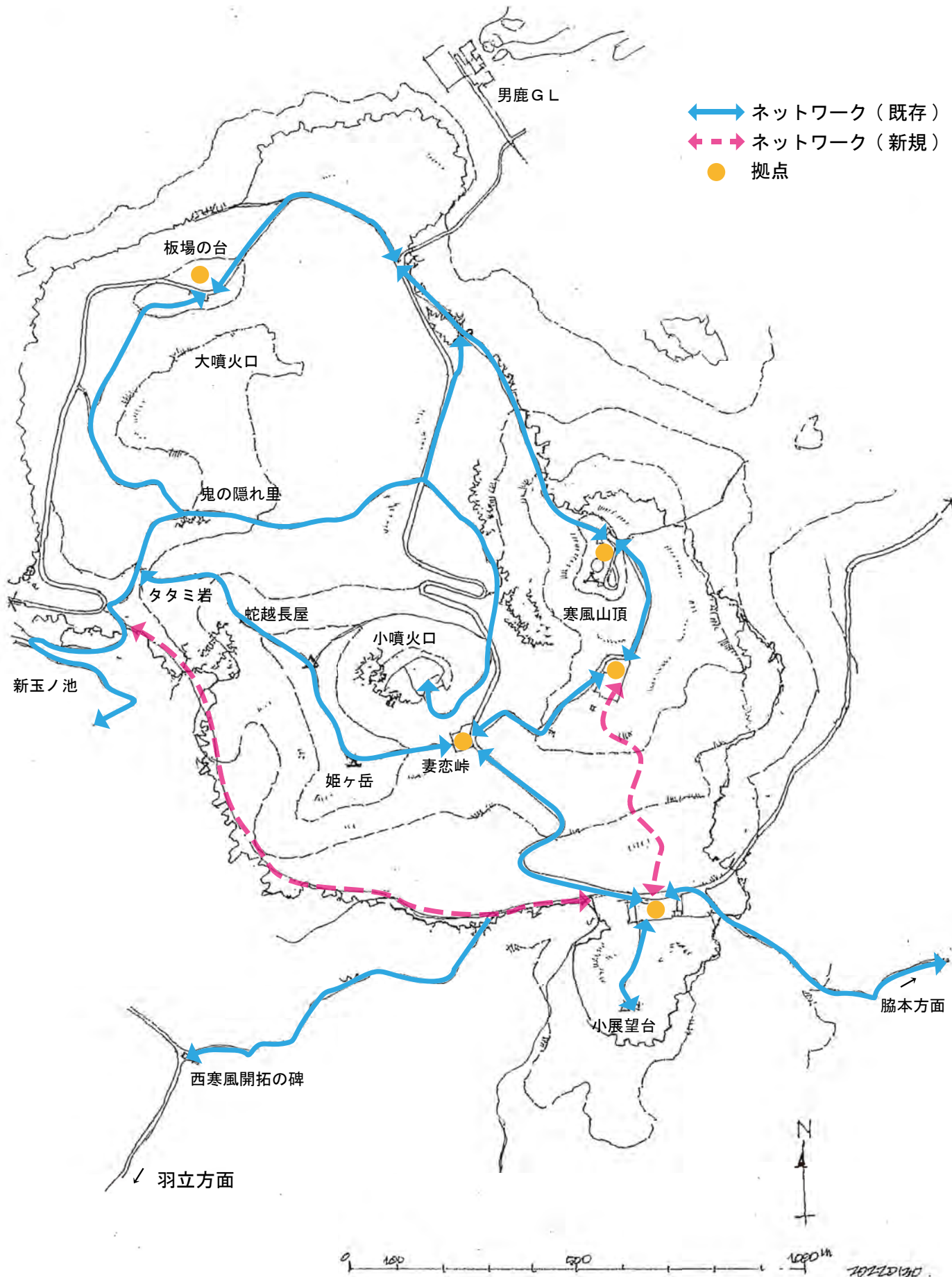


図4-10 ハイキング・トレッキングネットワーク図



3) 具体的な取り組み

(1) すべての受益者が参加できる草地の維持管理活動の仕掛けを作る

- 子どもからお年寄り、障がい者を含め、すべての受益者（市民・県民・観光客（国内・海外）・男鹿ファンすべて）を対象とする多様な維持管理活動機会を創出する。
- 山焼き大会・草刈り大会等のイベント的な対応から日頃の維持活動まで年間の維持管理プログラムを作成し、それを運用する。
- 山焼き・草刈り職人養成講座を開催して維持管理の人材を育成し、山焼き・草刈り職人認証制度を制定して人材のネットワーク確立を目指す。
- 生態系保全・育成職人養成講座を開催して自然観察ゾーンにおける維持管理の人材を育成するとともに、自然観察プログラムの担い手を育て、認証制度を制定して人材のネットワーク確立を目指す。
- 持続可能な維持管理活動のために活動資金を集める主体の確立とその手法を検討していく。

(2) すべての利用者が1日過ごせるサービスを提供する

- アクティブゾーンを中心に公園空間としての多様な利用を促し、支える各種サービスを提供する。
- 5つの拠点の性格づけに応じた多様な機能を用意し、子どもからお年寄り、障がい者すべてのニーズに応じて絶えず更新して魅力的な公園利用を支える。例えば以下のような機能が想定される。
 - A. 飲食系機能
 - ・カフェ・バー・キッチンカー・レストラン
 - B. 物販系機能
 - ・フリーマーケット・マルシェ・アウトドアショップ・寒風山ブランドショップ
 - C. 展示・レンタル系機能
 - ・図書館・ギャラリー・アート
 - D. サービス系機能
 - ・Wi-Fi・グランピング・ホテル・コワーキングスペース
- コンテナ利用やトレーラーハウス、キッチンカーなどで移動可能な各機能のサービスをコンペ等でアイデアを募る。
- 移動可能で簡易な施設による機能誘導は、多様な主体による出店を期待して費用面で低廉であるとともに、将来的に二次草地の維持管理における山焼きの拡大に対応して実施時に撤去可能な対応も想定する。

(サービス提供のイメージを次頁以降・参考—1～4に示す)

参考-1 コンテナ利用のカフェ・店舗（例示）



参考-2 キッチンカー（例示）



参考一3 トレーラーハウスタイプの宿泊施設（例示）



参考一4 仮設ステージ（事例）



仮設の能舞台



(3) 寒風山ならではの遊びを提案する

- 寒風山で誰もが楽しく遊べるように、草地遊び・風遊び・斜面遊び・雪遊び・・・など多様な遊びを開発し、提案することで山に来る人を増やし、さらにリピーターを獲得していく。
- 遊びをみんなで考える機会として「寒風山遊びグランプリ」などの公募によりアイデアを募る。その際、一般公募以外に市内の学校での取り組みとして遊びを募集し、学年縦断的グループによるアイデアの検討を誘導し、新しい遊び方だけでなく、古い遊びの新しいルールの提案も含めた提案を期待する。
- 様々な遊びについて「遊びの達人養成講座」の開催や「遊び達人認定制度」などにより広めていく。
- 寒風山の野遊び歳時記を作成し、四季で変化する遊びを情報発信していく。
- 四季に応じた〇〇遊び大会を開催する。

■ 山駆け・かけっこ大会



■ 草そり・草すべり



■ 虫とり・草あそび



(4) 特別な時間を過ごすプログラムを提案する

- 観光客が特別な時間を過ごせる自慢の場所で、春夏秋冬、朝昼夕晩、晴雨雪、記念日など様々な状況での特別なプログラムを企画し、ツアーコンテンツとして提案・販売する。
- 寒風山でしかできない大規模なイベントを企画し実施する。（寒風山まつりの復活・拡充を含む）
- 自然学習・観察やジオパーク体験のプログラムの企画を充実し実施する。
- 小学生の徒歩登山復活を検討する。

(5) 車以外のアクセスを充実させる

- 交通事業者との連携により、多様なアクセスメニューを用意する。
- 多様な市民の多様なアクセスを確保するために「市内循環路線バス」を交通事業者と検討する。
- 観光客の多様なアクセスを検討し、ツアープログラムとセットになった利用を検討する。例えば「レール&バス」「レール&ハイク」「レール&バイク」「シップ&バス」「パーク&ハイク」「パーク&バス」などが想定される。
- 寒風山エリア内の5つの拠点間移動を支える新システム（電動シャトル）の運行を検討する。特に山頂への一般車両の乗り入れ禁止措置のために導入が必要である。

参考ー5 拠点間移動の電動シャトル（例示）



(6) ランドマークとビューポイントの両面での環境整備を進める

- ランドマークとして寒風山がどうあるべきかを考えるために、年間を通じた「寒風山フォトコンテスト」を実施し、作品を元にした検討の機会をつくる。
- 上記フォトコンテストでは撮影した場所を「寒風山ビューポイント」の候補としてあげ、主要な場所での案内表示やビュースポットとしての環境整備を検討する。

3. 寒風山ビジョンのイメージ

1) 寒風山ビジョンの全体イメージ

寒風山ビジョンの体系における「目指すべき空間像」で示した2つのゾーン、5つの拠点、ハイキング・トレッキングネットワークを合わせた寒風山ビジョンの全体イメージを図4-11に示す。

図4-11 寒風山ビジョン図



2) 拠点のイメージ

5つの拠点毎のイメージを以下に示す。内容的には各拠点に求められるイメージや機能、活動内容、交通サービス等の考え方を一覧で示すとともに、それぞれの拠点の具体的なイメージをイラストで示す。

(1) 山頂天空広場

山頂天空拠点については、回転展望台のあり方に関しては民間所有であることも踏まえて3つの案を並列で示すに留めることとし、今後の検討が必要である。

イメージ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 神聖な空間 ・ 360度の大パノラマ ・ 自慢の場所 ・ 小規模で特別な時間を過ごすプログラムの実施
公園的利用を支える 各種サービスの提供	飲食系	・ キッチンカー等による仮設的な提供（カフェ・軽食・バー等）
	物販系	(なし)
	展示・レンタル系	(なし)
	サービス系	<ul style="list-style-type: none"> ・ Wi-Fi ・ 最低限のトイレ
各種イベント開催	中小プログラム	小人数での特別な時間を過ごすプログラムの実施（小広場）
	大規模プログラム	(なし)
ジオパークツアー・ 自然観察・環境学習	インフォメーションセンター	(なし)
	休憩ポイント	・ ジオパークツアーの解説地点及び休憩場所
交通サービス	自家用車	<ul style="list-style-type: none"> 原則乗入れ禁止 身障者等限定的な利用に対応した小規模駐車場の確保
	観光バス	乗降場所のみ（新システム導入までの暫定的設置）
	路線バス	乗降場所のみ（新システム導入までの暫定的設置）
	新システム	拠点間移動の電動シャトルの運行（乗降場所のみ）

図4-9 山頂天空広場（山に戻す案）のイメージ

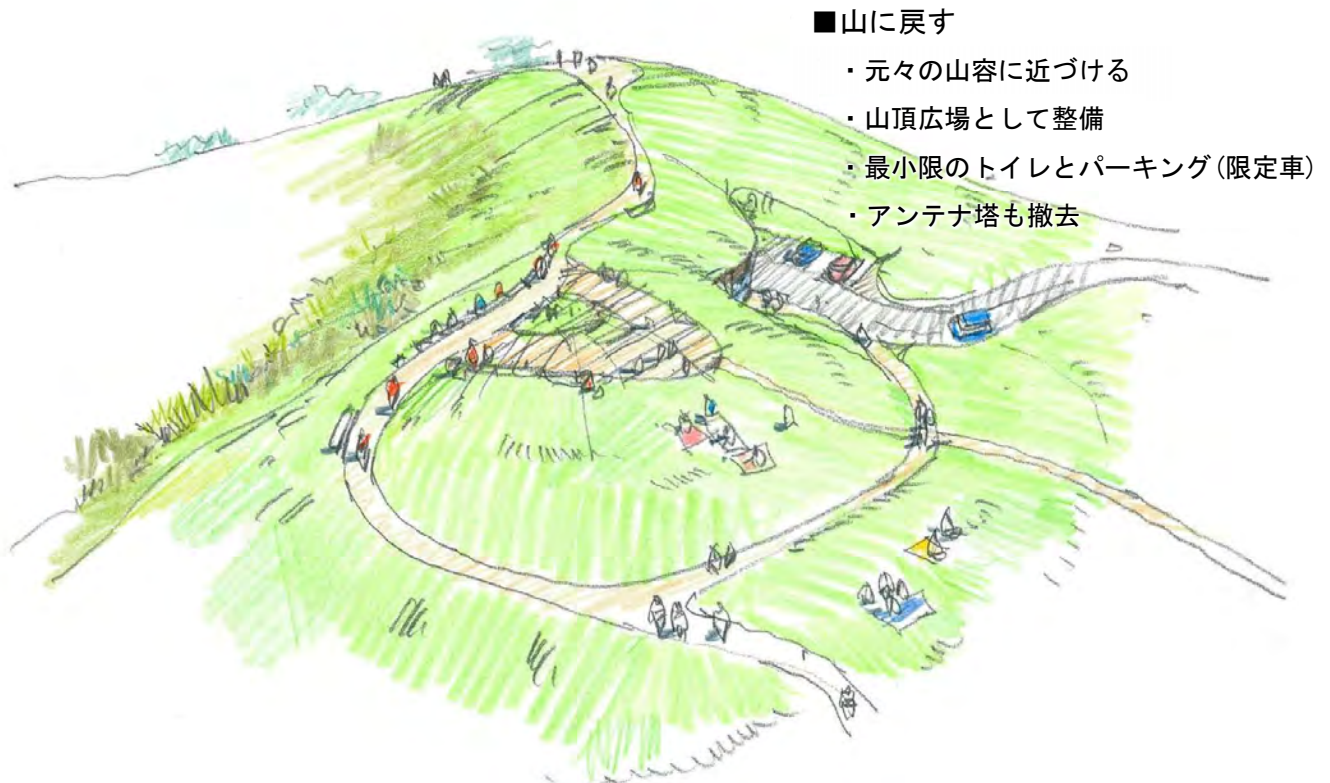


図 4-10 山頂天空広場（回転展望台の記憶・スケールダウン案）のイメージ

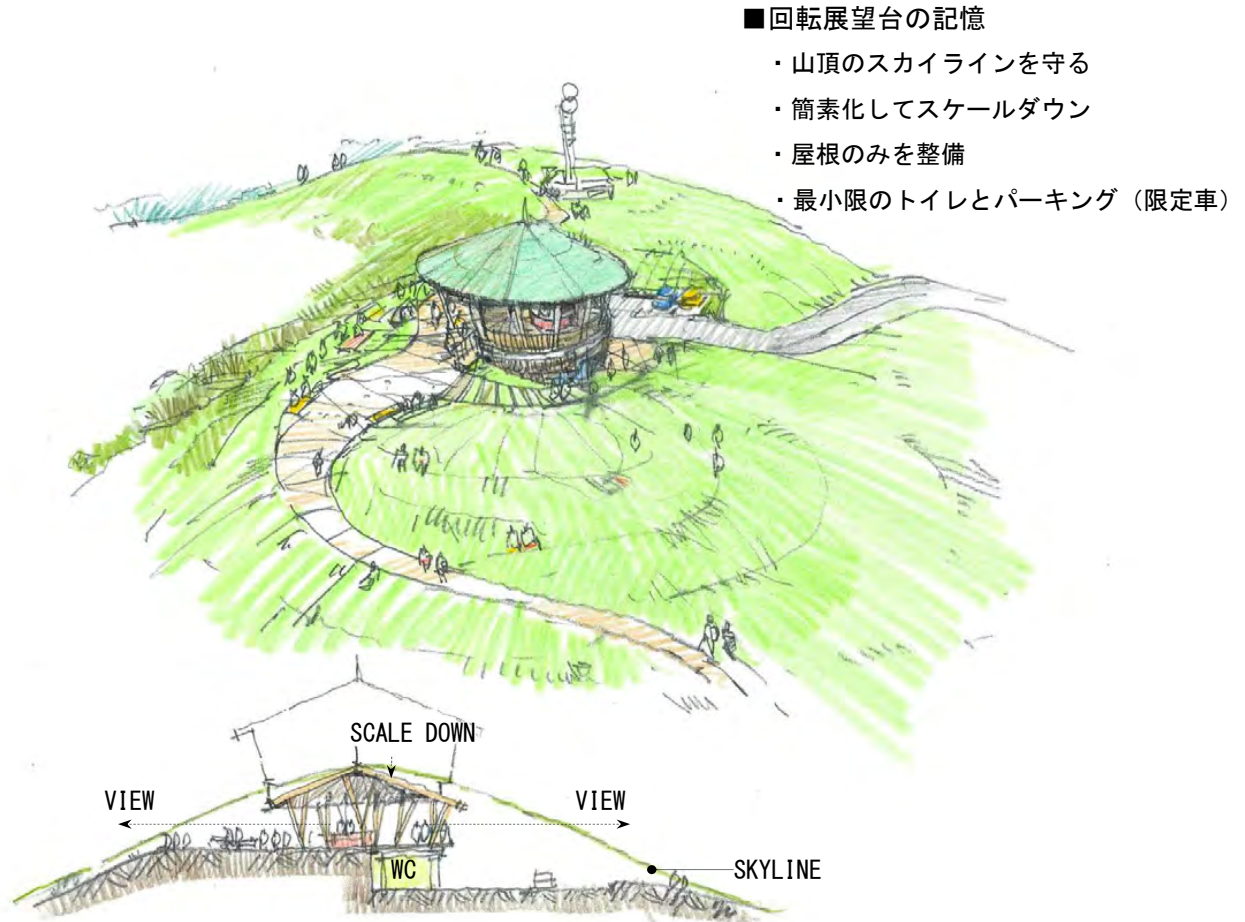
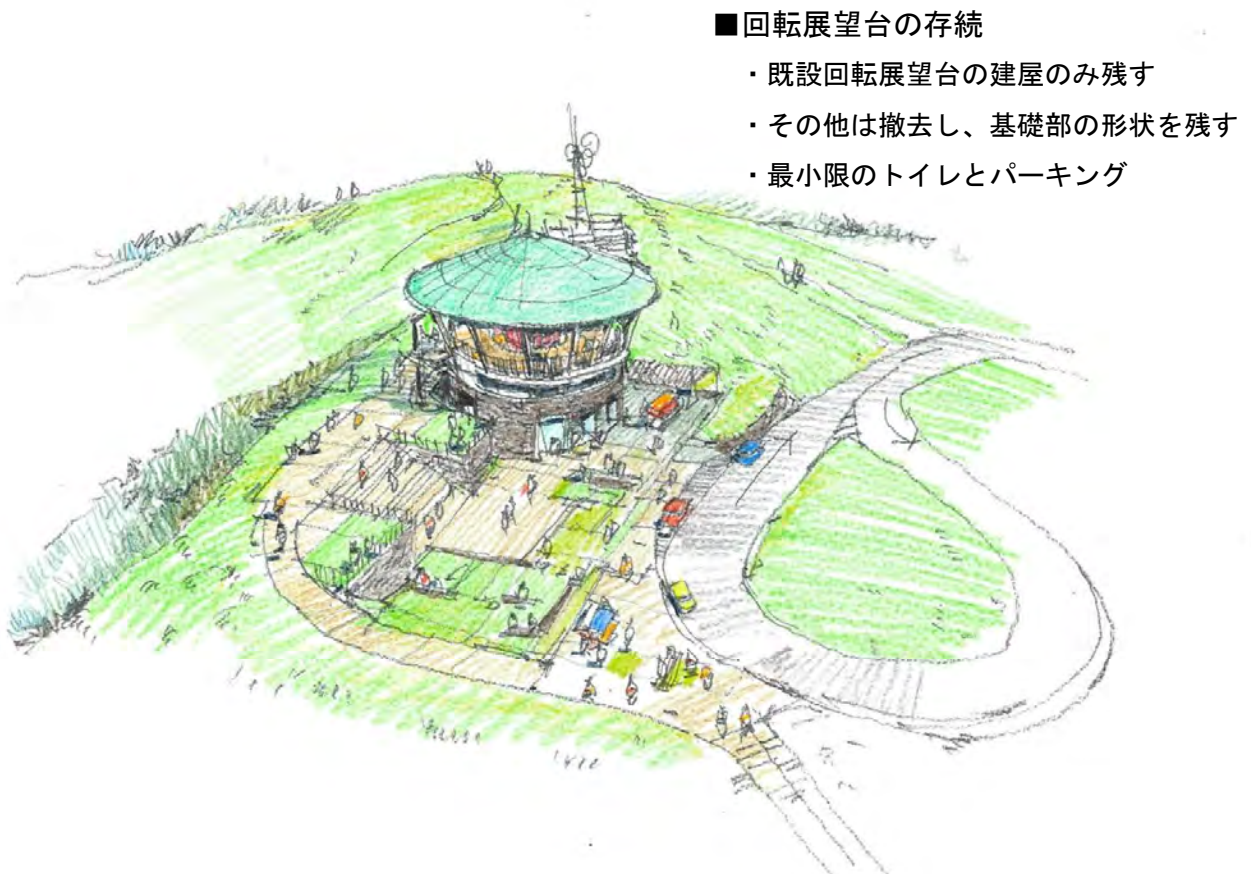


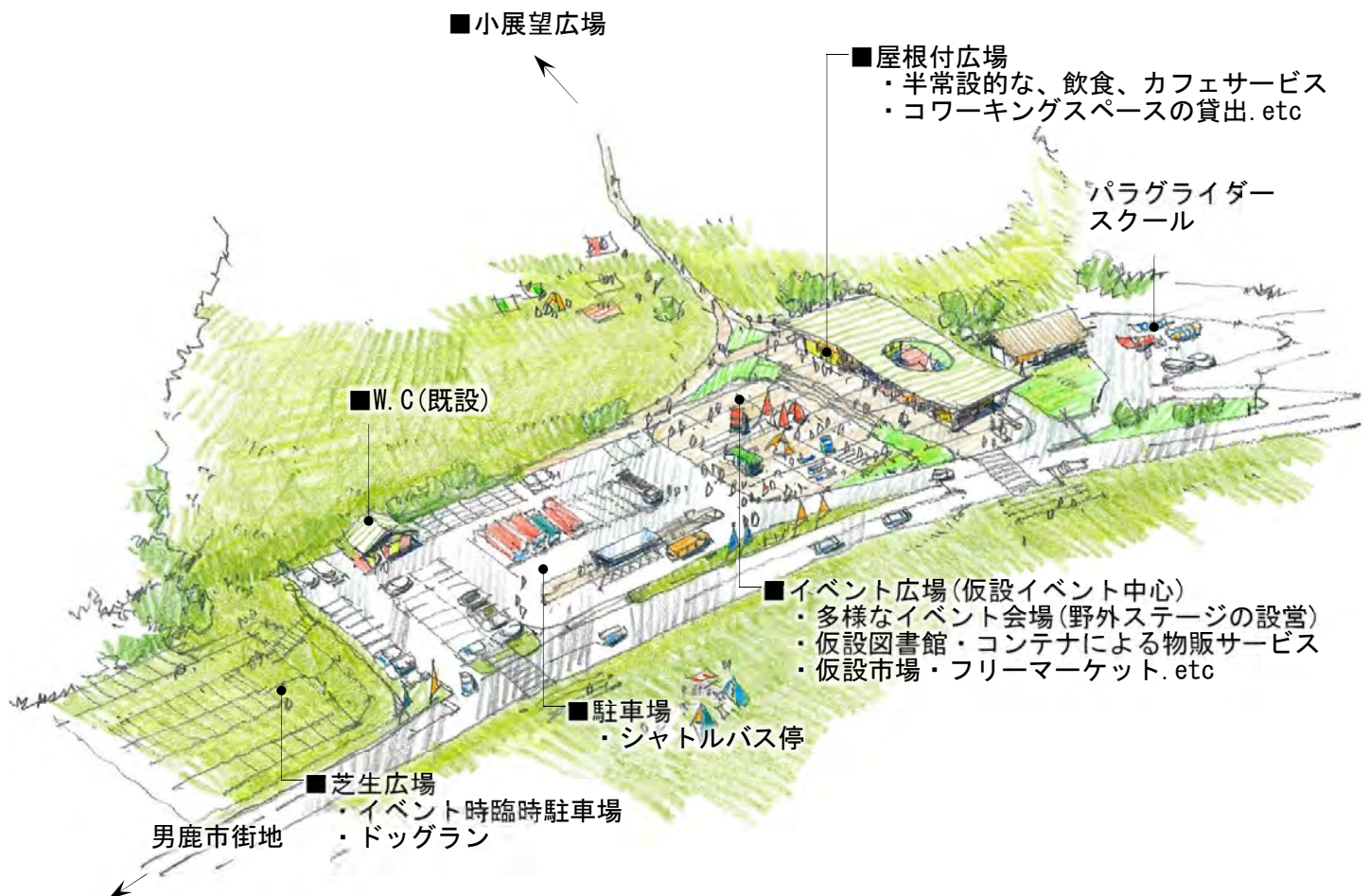
図 4-11 山頂天空広場（回転展望台存続案）のイメージ



(2) 市民広場

イメージ		<ul style="list-style-type: none"> 市民の日常的利用の拠点 多様な公園サービス機能の中心 アクセスの乗り換えなどターミナル機能
	公園の利用を支える各種サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 飲食系 <ul style="list-style-type: none"> 半常設的なコンテナなどによる飲食サービスの提供（喫茶・食堂・バー） イベント時などでのキッチンカーによる飲食の提供 物販系 <ul style="list-style-type: none"> 半常設的なコンテナなどによる物販サービスの提供（土産物・日常雑貨・アウトドア用品等） 仮設的な市場・フリーマーケットなどの開催 展示・レンタル系 <ul style="list-style-type: none"> 情報提供やアートギャラリーなどの展示サービスの提供 移動図書館などの図書貸出しサービスの提供 サービス系 <ul style="list-style-type: none"> Wi-Fi コワーキングスペースの提供 大規模なトイレ（イベント時の仮設トイレを含む）
各種イベント開催	中小プログラム	各種プログラムの情報提供、受付などの総合案内機能
	大規模プログラム	野外ステージ利用などを含めて大規模なイベントの実施（大広場）
ジオパークツアー・自然観察・環境学習	インフォメーションセンター	各種プログラムの情報提供、受付機能
	休憩ポイント	（なし）
交通サービス	自家用車	大規模駐車場の確保
	観光バス	駐車場の確保
	路線バス	乗降場所とともに新システムへの乗り換えなどターミナル的な位置づけ
	新システム	拠点間移動の電動シャトルの運行（ターミナル的な位置づけ）

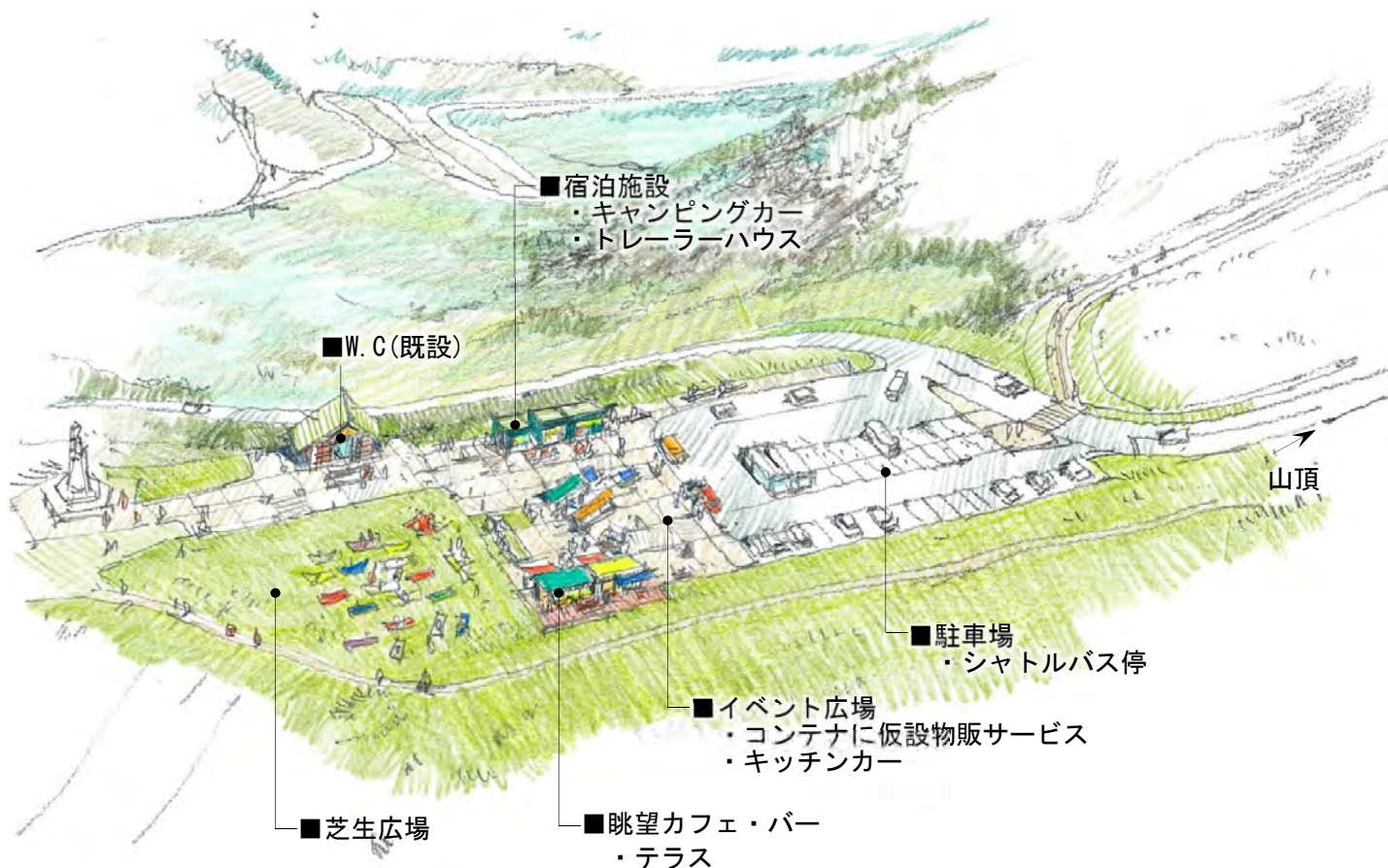
図 4-12 市民広場のイメージ



(3) 風と空の広場

イメージ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 最も寒風山らしい過ごし方を支える拠点 ・ 風と空をテーマとする小規模で特別な時間を過ごすプログラムの実施 ・ 誓の御柱
		<ul style="list-style-type: none"> ・ アクティブゾーンでの過ごし方を支える拠点
公園的利用を支える各種サービスの提供	飲食系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眺望や環境を活かした半常設的なコンテナなどによる飲食サービスの提供（カフェ・バー等）
	物販系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風や空をテーマとする物販サービスの提供
	展示・レンタル系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風や空をテーマとするアートや情報の提供
	サービス系	<ul style="list-style-type: none"> ・ Wi-Fi ・ トイレ ・ 宿泊機能（トレーラーハウス・キャンピングカー対応）
各種イベント開催	中小プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小人数での特別な時間を過ごすプログラムの実施（小広場）
	大規模プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模イベントのサブ機能
ジオパークツアー・自然観察・環境学習	インフォメーションセンター	(なし)
	休憩ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジオパークツアーの休憩場所
交通サービス	自家用車	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山頂への最終駐車場（徒歩あるいは路線バス・新システムへの乗り換え）
	観光バス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗降場所及び最低限の駐車場の確保
	路線バス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗降場所のみ
	新システム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点間移動の電動シャトルの運行 ・ 山頂アクセスのターミナル的位置づけ

図 4-13 風と空の広場のイメージ



(4) 妻恋広場

イメージ		・ トレッキングの拠点
		・ ジオパークや各種自然観察・環境学習ツアーのサブ拠点
		・ アクティブゾーンでの過ごし方を支える拠点
		・ 冬の遊びの拠点 (スキー・ソリ・スノーシュー)
公園の利用を支える 各種サービスの提供	飲食系	・ 眺望や環境を活かした半常設的なコンテナなどによる飲食サービスの提供 (カフェ・バー等)
	物販系	・ トレッキング用品などの物販サービス
	展示・レンタル系	(なし)
	サービス系	・ Wi-Fi ・ 眺望や環境を活かしたワーキングスペースの提供 ・ トイレ
各種イベント開催	中小プログラム	・ 小人数での特別な時間を過ごすプログラムの実施 (小広場)
	大規模プログラム	(なし)
ジオパークツアー・ 自然観察・環境学習	インフォメーションセンター	・ トレッキングのインフォメーションセンター機能 (インストラクター対応を含む)
	休憩ポイント	・ ジオパークツアーの解説地点及び休憩場所
交通サービス	自家用車	・ トレッキング用駐車場が主体
	観光バス	・ トレッキングツアー関連の駐車場の確保
	路線バス	・ 乗降場所のみ
	新システム	・ 拠点間移動の電動シャトルの運行 (乗降場所のみ)

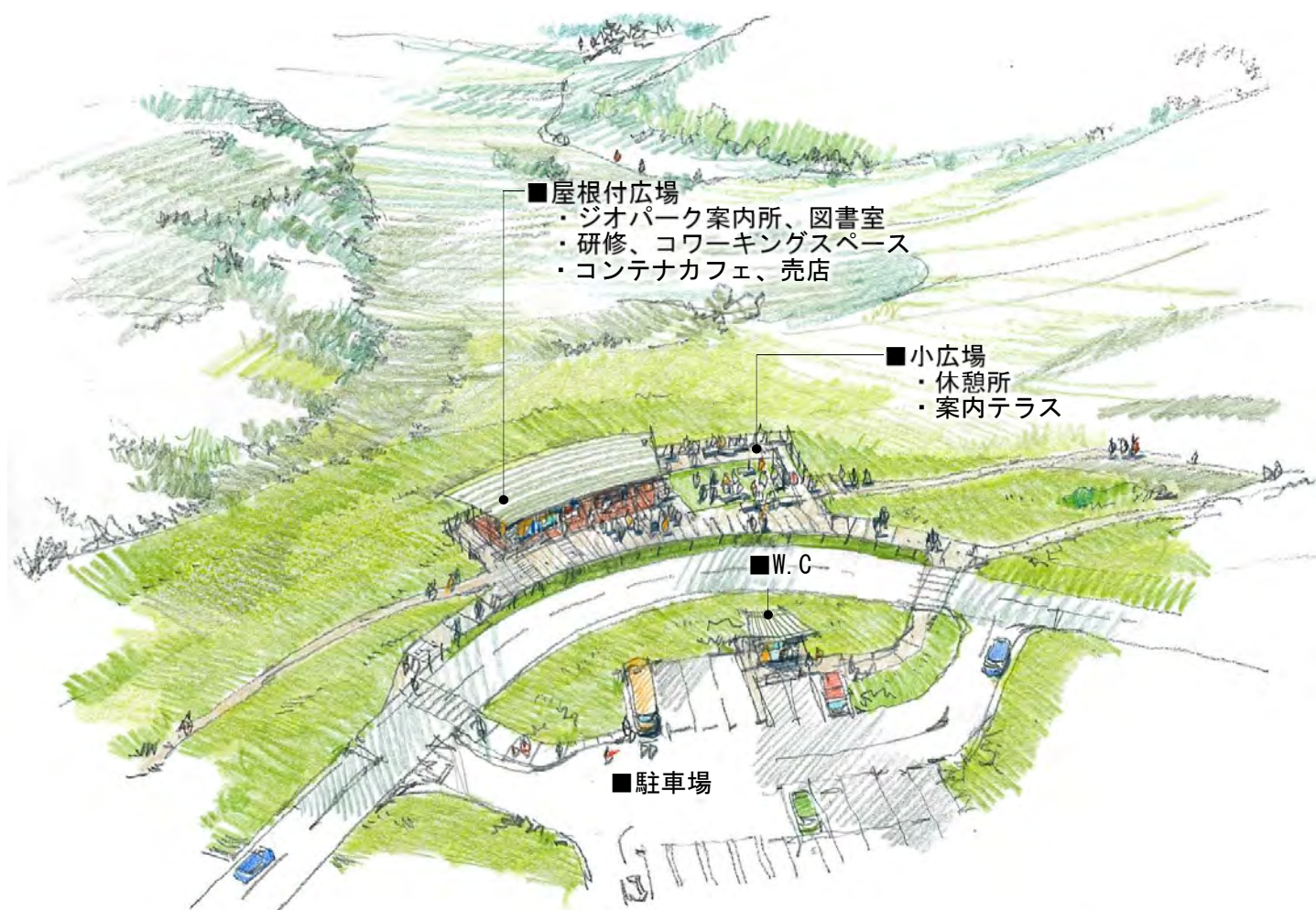
図 4-14 妻恋広場のイメージ



(5) 火山広場

イメージ		<ul style="list-style-type: none"> ・ ジオパークや各種自然観察・環境学習ツアーの拠点 ・ 北側アクティブゾーンでの過ごし方を支える拠点
公園的利用を支える各種サービスの提供	飲食系	・ 眺望や環境を活かした半常設的なコンテナなどによる飲食サービスの提供（カフェ・バー等）
	物販系	・ ジオパークや自然観察関連の書籍やグッズの物販サービス
	展示・レンタル系	・ ジオパークや自然観察関連の情報提供
	サービス系	<ul style="list-style-type: none"> ・ Wi-Fi ・ ジオパークや自然観察関連の研修スペースの提供 ・ トイレ
各種イベント開催	中小プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小人数での特別な時間を過ごすプログラムの実施（小広場） ・ 冬期プログラムの実施
	大規模プログラム	（なし）
ジオパークツアー・自然観察・環境学習	インフォメーションセンター	・ ジオパークや自然観察関連のインフォメーションセンター機能（ツアーガイド対応を含む）
	休憩ポイント	・ トレッキングの休憩場所
交通サービス	自家用車	・ ジオパークや自然観察関連用駐車場が主体
	観光バス	・ ジオパークや自然観察関連の駐車場の確保
	路線バス	・ 乗降場所のみ
	新システム	・ 拠点間移動の電動シャトルの運行（乗降場所のみ）

図 4-15 火山広場のイメージ



第5章 実現のための仕組み・体制づくり

1. 基本方向

「寒風山ビジョン」を実現していくために以下の3つの体制づくりが必要である。

1) すべての受益者が参加できる草地の維持管理活動を支える体制

- 様々な立場の市民（生活者・就業者・就学者・企業等）が、それぞれの状況に応じた草地の維持管理活動への参加を可能とする多様な機会を作り、寒風山の受益者として巻き込んでいく体制づくり
- 草地の維持管理活動を体験型のプログラムとする観光ツアーを企画・実施し、観光客を巻き込んでいく体制づくり
- シンボリックなイベントとしての草刈り大会や山焼き大会を企画・運営し、広く市民や観光客を巻き込んでいく体制づくり
- 維持管理活動の人材を育成するための技術を学ぶ機会づくりと、人材のネットワークを広げていくための技術者の認証制度の運用を支える体制づくり

2) 市民の多様な活用を促進する体制

- 公園的な利用を支え、促進する多様な機能の導入をプロデュースし、総合的に運用していく体制づくり
- 子どもからお年寄りまで多様な世代が楽しめる、様々な過ごし方や遊び方を提案するとともに、それらに触れる機会としてのイベント等を企画・実施する体制づくり
- ファンクラブや会員制度など、継続的に市民が寒風山と関わるプロジェクトを企画・運営する体制づくりで、より愛される寒風山を目指す。

3) 観光的に多様な活用を促進する体制

- 寒風山の魅力を満喫できる多様な観光ツアーを継続的に企画・プロデュース・運営していく体制づくり
- 市内各観光機能との連携により、男鹿観光全体の振興に寄与する体制づくり
- 多様な情報ツールを活用した強力な情報発信力を持つ体制づくり

2. 具体化へ向けた検討体制

前項で掲げた3つの体制を実現するために、図5-1には具体化へ向けた4段階のステップとそれに応じた体制づくりを示している。

まずは寒風山ビジョンで示す多様で広範な取り組みの中から個別の検討テーマ（これまでの検討の中で出てきた検討テーマの例示を図5-2に示す）を設定して興味・感心のある市民の公募と関連する既存組織との連携・協働による検討会（考える会のような）を重ねて、具体的な取り組み内容を詰めていくことが考えられる。これに合わせて実施出来る取組から実施に移していくための実施体制のあり方と、その実現の方法を協議していく。

このような具体的な実践活動を積み重ね、継続しつつ別の取組との連携や調整を図り、最終的に持続可能な総合的体制を確立していくことが必要である。

図5-1 具体化へ向けた流れ（シナリオ）

【ステップ】

【多様な主体を巻き込む体制づくり】

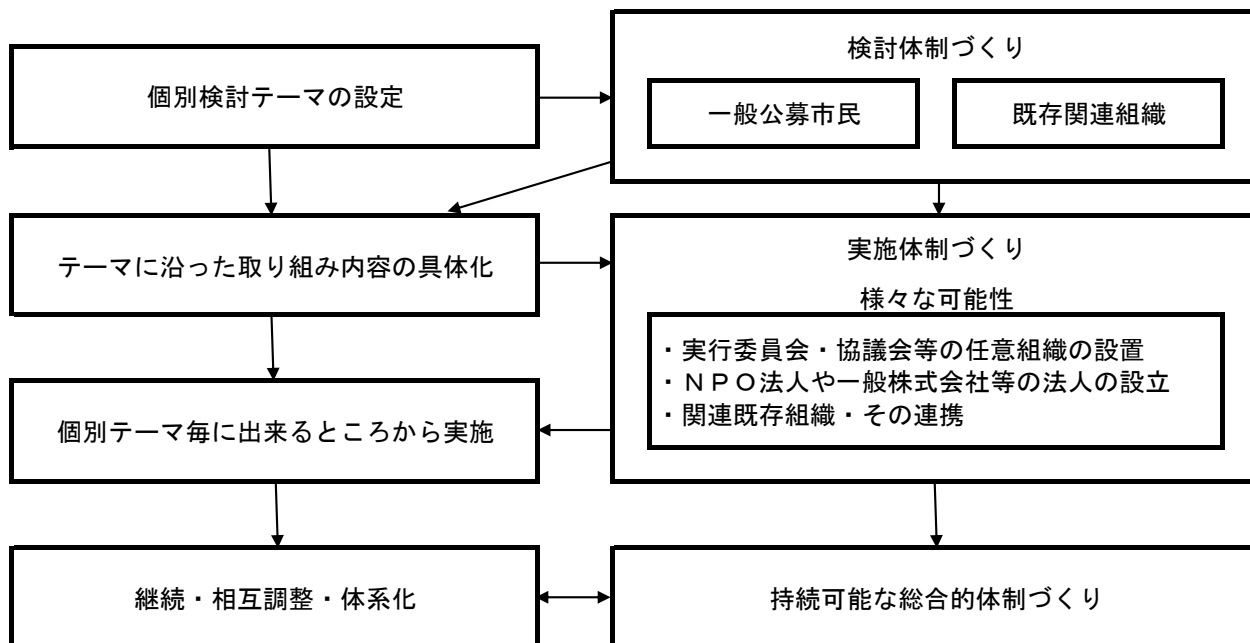


図5-2 具体的な取組に対応した検討テーマの例示

<p>① 全ての受益者が参加できる草地の維持管理活動の仕掛けを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 二次草地の保全を考える ● 寒風山の生態系を考える ● 山菜の育成と販売を考える ● 刈った芝の活用を考える 	<p>④ 特別な時間を過ごすプログラムを提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 寒風山まつりの復活を考える ● 小学校の徒歩登山復活を考える ● 観光ツーリズムのコンテンツを考える ● 定期的な中小規模のイベントを考える
<p>② 全ての利用者が1日過ごせるサービスを提供する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 拠点における機能誘導を考える 	<p>⑤ 車以外のアクセスを充実させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 寒風山で電動シャトルを走らせることを考える
<p>③ 寒風山ならではの遊びを提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 寒風山遊びを考える ● 寒風山キャンプを考える 	<p>⑥ ランドマークとビューポイントの両面での環境整備を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 山頂天空広場のあり方考える ● 寒風山の自慢のビューポイントを考える

3. 持続可能な総合的体制づくり

最後に、持続可能な総合的体制として必要な条件や課題を示す。

1) 適度に儲かる公共空間を経営する総合的な体制をつくる

- 公共空間の経営は、そこでの価値を生み出し、その価値を持続可能にすることが必要である。
- 寒風山ビジョンに基づいて価値を生み出し、その価値を持続可能にするためには適度に儲けることが重要であり、利益を寒風山の環境を守るためのあらゆる事に再投資していくことが求められる。
- そのような経営を行うためには民間（企業や組織・団体）に委ねることが求められる。
- 近年、このように公共空間の経営を民間に委ねる動きが加速しており、公園における「Park-PFI（公募設置管理制度）」や「包括連携協定」などの手法を活用した展開が増えている。
- 一方、経営においては市民・受益者の参加が重要であり、あらゆる場面で市民・受益者との協働による取り組みを進めていくとともに、経営的判断における参加の機会を設けることも求められる。
- また、市内はもとより県内、国内、海外まで含めた広範な関係組織・団体とのネットワークの構築と多様で強力な情報発信機能を持つことが求められる。
- 以上のような総合的な体制づくりを目指すこととする。

2) 総合的な体制の自立的経営のためにお金を集める仕組みをつくる

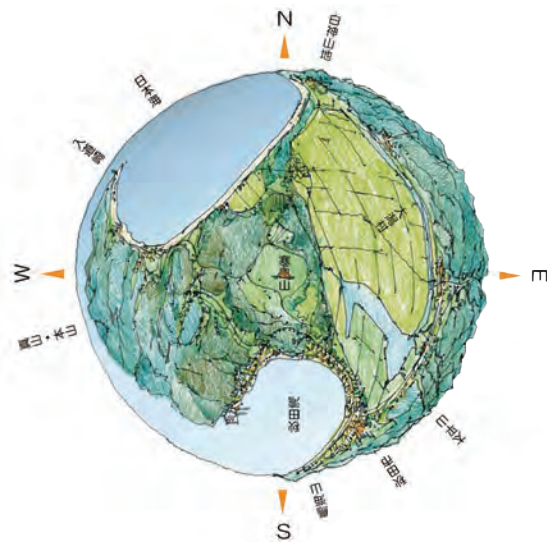
- 寒風山の魅力的な環境で過ごし、そこでのサービスを享受し、各種プログラムへ参加するという利益を受ける受益者に対して、受益者負担の原則に基づき資金調達することを考える。
- 例えば「寒風山債」や「寒風山ファンド」のような形での出資支援などもその1つである。
- 前項で示すように「適度に儲かる」経営のためには、寒風山という資産の運用による資金確保（アセット・マネージメント）が求められ、そのために目指す総合的組織が長期借地などにより資産を獲得することが望まれる。
- 寒風山環境の維持・向上と市民・観光客の活用の活性化を両立させ、かつそれを持続可能にしていくためには、自立的経営を目指すことが不可欠である。

3) 寒風山エリアでの機能・施設の誘導における留意点

- 自然公園法を遵守し、県との十分な調整の上で取り組むことが必要である。
- その上で出来るところから整備を進めていくために、初期投資が少なく法律との調整が比較的容易な固定しない仮設的・可変的対応が適切である。
- 具体的には、コンテナハウスやトレーラーなど自走や運搬可能な施設の積極利用や既存施設のリノベーションで、ニーズに合わせたサービスの提供を柔軟に行うことができる。
- このような対応により、事業への参加者の幅も広がり多様な人材が集まる。
- 可変的対応は同時に、草地管理における山焼き実施の自由度を高めることにもなる。

【謝 辞】

この『魅力ある寒風山ビジョン』作成にあたり、ご協力いただきました市民、企業、団体の皆様をはじめ、寒風山ビジョンワークショップやヒアリングにおいて、貴重な御意見、御提言をいただいた皆様、寒風山への思い出をお寄せいただいた皆様、寒風山に関する知見をいただいた寒風山山焼き実行委員会、秋田県庁、東日本旅客鉄道株式会社秋田支社、秋田中央交通株式会社ほか、多く皆様に心より感謝申し上げます。



魅力ある寒風山ビジョン

2022年3月

発行 : 男鹿市
事務局 : 観光文化スポーツ部観光課
〒010-0595
秋田県男鹿市船川港船川字泉台 66-1
0185-24-9141
協力 : 有限会社 寺川ムラまち研究所
株式会社 タウンスケープ研究所